

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：今井亜湖
情報社会と倫理	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：			
情報通信技術の発達により日々変化している情報社会の特性を理解し、情報社会において生じる諸問題に対処するための知識や考え方等を学び、これからの社会で求められる情報モラル教育について考える。			
到達目標：			
・ 情報社会の特性について理解する。 ・ 情報通信技術を用いる利便性と危険性のトレードオフを理解する。 ・ 情報社会における諸問題とその対応について理解する。 ・ 情報に関する法律はどのようなものがあるかを知り、その概要を理解する。 ・ 情報モラル教育を行うために必要な知識を理解する。			
授業の概要			
情報通信技術の発展により、私たちの生活様式は日々変化している。こうした変化は利便性の向上とともに、さまざまな問題を引き起こしている。本科目ではこうした問題についてどう取り組めばよいのかを、情報技術・倫理学の観点から考えていく。			
授業計画			
第1回：情報社会とその構造			
第2回：知的財産権			
第3回：著作権法			
第4回：プライバシーと個人情報			
第5回：個人情報の保護			
第6回：ネットワークサービスとその構造			
第7回：ネット・コミュニケーションの特徴			
第8回：有害情報と誤情報			
第9回：メディアリテラシー			
第10回：コンピュータウイルス			
第11回：インターネット上の詐欺行為			
第12回：ネットいじめ			
第13回：オンラインプライバシー			
第14回：デジタルデバイスとユニバーサルデザイン			

第15回：情報モラル教育
テキスト 授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時の課題（60%），最終課題（40%）により評価を行う。

授業科目名： 情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松原 正也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
ICTの利用が推進される中、情報セキュリティの重要性に関する社会の認識は高まる一方である。情報安全上の脅威は、個人のみならず企業・学校などの組織においても重大な課題である。この授業では、組織における情報セキュリティの管理・運用に携わるために不可欠な知識・知見について、実例や実践を交えながら習得することを目標とする。			
授業の概要			
情報セキュリティにおける概念、脅威および脆弱性を体系的に分類し、情報セキュリティに関わる基礎技術・知識を習得するとともに、それらに対応するための事前対策的手法および技術と、有事の際の組織内の役割に応じた適切な判断と行動を体得する。			
授業計画			
第 1回：情報セキュリティの基礎(1)：情報セキュリティの概念と現状			
第 2回：情報セキュリティの基礎(2)：情報セキュリティにおける特性			
第 3回：情報セキュリティを脅かす脅威(1)：脅威の分類			
第 4回：情報セキュリティを脅かす脅威(2)：サイバー攻撃の手法			
第 5回：情報セキュリティを脅かす脅威(3)：マルウェア			
第 6回：情報セキュリティを脅かす脅威(4)：災害・システム障害・人による脅威			
第 7回：脆弱性(1)：情報通信ネットワークにおける脆弱性			
第 8回：脆弱性(2)：情報システムやアプリケーション・情報サービスにおける脆弱性			
第 9回：情報セキュリティマネジメント：リスクと組織体制の整備			
第10回：情報セキュリティ対策(1)：脆弱性の発見・アクセス制御			
第11回：情報セキュリティ対策(2)：情報セキュリティを保つシステム技術			
第12回：情報セキュリティ対策(3)：認証			
第13回：情報セキュリティ対策(4)：暗号と安全な情報通信			
第14回：情報セキュリティに関わる法制度と資格			
第15回：情報セキュリティマネジメント実践：インシデント発生時における適切な対処			
定期試験			
テキスト			
授業中に指示する。			
参考書・参考資料等			

授業中に指示する。

学生に対する評価

授業態度・課題レポート・小テストの結果・定期試験をもって評価する。

定期試験(50%)，課題レポート・小テスト(25%)，授業態度(25%)を基準とする。

授業科目名：人間発達科学Ⅱ（学校教育情報概論）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			坂本 将暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》本講義は、学校教育情報コースへの導入としてはもちろん、広く教育学の入門的な意味を持ち、学校・教育事象の歴史と現代の課題に学校教育情報コースの教員がそれぞれの領域の視点から迫る。			
《到達目標》この授業では、次の点を身につけることを目標とする。			
・ 講義で使用する基本的な概念			
・ 批判的に論じたり分析したりするための様々な視点			
・ 概念や考えや結果を、現実の教育事象に応用すること			
授業の概要			
教育学に関わる学問のうち学校、児童生徒、教師に大に関わる分野に焦点を当て、歴史的・社会文化的・人間形成的な意義について講義をしたり、それらについて議論をしたりする。			
本授業では、社会との関わり、人との関わり、あるいは情報との関わりにも視野を広げて、問題解決の素養を身につけ、与えられた問題だけを解決する姿勢ではなく、切実な問題に気づき、その解決に取り組む姿勢を身につける。			
授業計画			
第1回：大学で教育学を学ぶ意義			
第2回：教育経営学			
第3回：学校病理現象			
第4回：教育改革			
第5回：学校づくり			
第6回：教育工学			
第7回：情報教育			
第8回：プログラミング教育			
第9回：STEM教育			
第10回：産業における教育工学			
第11回：授業研究			
第12回：教授の科学化			
第13回：学習の科学化			
第14回：教材研究			

第15回：教師教育学

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

授業態度（20％）、課題（30％）、定期試験（50％）

授業科目名：情報化社会と学校教育（学校教育情報基礎論）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 好章 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標				
現代社会は、「情報化社会」「知識基盤社会」「経済のグローバル化」等の用語にみられるように大きく変容してきている。こうした新しい社会において、学校・教育の果たす役割はどのように変化してきているのであろうか。新しい社会に適合的な授業の方法、教育の内容及び教師の仕事や学校経営とはいったいどのようなものであろうか。 本講義では、学校・教育の＜現在＞を問い直し、文献やそれにもとづく議論を通して高度な専門的知識を習得し、今後の課題と展望を明らかにする。日本の学校・教育の＜現在＞を歴史的、国際的な観点から分析することのできる論理的・批判的思考力と判断力を身につける。				
授業の概要				
情報化による社会の変化に対応した学校教育のあり方を、学校教育情報コースを構成する諸領域（教育情報学、教育方法学、カリキュラム学、教師教育学、教育経営学）の学問的方法と知見にもとづき講義を行う。併せて、授業内外に課す課題を通して、受講者が多面的・多角的に考察する機会を設ける。				
授業計画				
第1回：イントロダクション				
第2回：学習過程のデザイナーとしての教師				
第3回：授業実践の本質と教師の資質				
第4回：授業改善と教師の成長 ―改善の科学としての授業研究―				
第5回：比較授業分析による教師の暗黙知の解明				
第6回：情報化の進展と学校の役割の変化				
第7回：学びのコミュニティとしての教室				
第8回：学校を基盤とする授業研究の意義				
第9回：事実にもとづく授業分析の方法と意義				
第10回：学校は何のためにあるのか―学校の社会的意義とその効果―				
第11回：学校は何のためにあるのか―伝統的解釈から新たな解釈へ―				
第12回：変容する社会と教育―グローバル化・高度情報化・知識基盤社会―				
第13回：大学入試から見る教育と社会―日本・アメリカ・イラン・フランス―				
第14回：社会の情報化と学校教育の課題				
第15回：まとめ				

定期試験
テキスト 授業内で講義資料を配布する
参考書・参考資料等 授業内で適宜指示す。
学生に対する評価 次の方法で評価する。 1. 各テーマに関するレポート（30％） 2. 授業内の課題（20％） 3. 最終レポート（50％）

授業科目名： 情報システムとプログラミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福岡大輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 情報システムとプログラミングのしくみを理解し、システム開発のための技能を習得する．学校教育に活用できる能力を養うことを目標とする。			
授業の概要 講義または演習を通じて、プログラミングに関する知識と技能を習得し、プログラミング言語(Python, C#)を用いて、具体的なアプリケーションの開発を行うことができる能力を養う。また、学校教育におけるプログラミング教育を理解し、実践できる能力を養う。			
授業計画： 第1回：情報システムとプログラミング 第2回：プログラミング基礎（データ型，データ構造，オブジェクト指向） 第3回：プログラミング言語 Pythonの概要と開発環境 第4回：プログラミング言語 Pythonの基本構文 第5回：プログラミング言語 Pythonとライブラリ 第6回：プログラミング言語 Pythonによるプログラミング実習：設計 第7回：プログラミング言語 Pythonによるプログラミング実習：開発 第8回：プログラミング言語 C#の概要と開発環境 第9回：プログラミング言語 C#の基本構文 第10回：プログラミング言語 C#とGUI設計 第11回：プログラミング言語 C#とアプリケーション開発 第12回：プログラミング言語 C#によるプログラミング実習：設計 第13回：プログラミング言語 C#によるプログラミング実習：開発 第14回：プログラミングと教育（アンプラグドプログラミング） 第15回：プログラミングと教育（学校教育におけるプログラミング） 定期試験			
テキスト 授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名： データサイエンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柘植直樹、福岡大輔
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
さまざまなデータの分析方法を理解し、機械学習による画像解析技術などの技能を習得する。			
授業の概要			
情報化社会において、さまざまな情報はデータベースにより一元管理され、ビッグデータデータを形成し、それらはデータ分析され新たな付加価値を創出している。本講義では、多変量解析などの分析や、機械学習による分析などについて理解を深める。			
授業計画：			
第1回：データ（量的データと質的データ）【担当：柘植】			
第2回：データ分析と統計基礎（基本統計量）【担当：柘植】			
第3回：多変量解析の基礎（回帰分析）【担当：柘植】			
第4回：多変量解析の基礎（主成分分析と判別分析）【担当：柘植】			
第5回：データ収集と加工【担当：柘植】			
第6回：データ分析と機械学習【担当：柘植】			
第7回：機械学習による数値データのクラス分類（実習含む。）【担当：福岡】			
第8回：画像処理：空間フィルタ（実習含む。）【担当：柘植】			
第9回：画像解析：画像特徴量（実習含む。）【担当：柘植】			
第10回：機械学習と画像クラス分類の基礎【担当：福岡】			
第11回：深層学習を用いた画像クラス分類（実習含む。）【担当：福岡】			
第12回：オートエンコーダと画像の異常検知（実習含む。）【担当：福岡】			
第13回：ビッグデータとデータ活用【担当：福岡】			
第14回：データの利活用と社会システム【担当：福岡】			
第15回：まとめ【担当：福岡】			
定期試験			
テキスト			
授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			
授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価			
演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名：教育情報学講義Ⅳ（プログラミング教育）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本 将暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》 本授業では、高等学校「情報」においてプログラミングを指導する意義と、その能力を身につけさせる。			
《到達目標》 ・高等学校「情報」でプログラミングを学ぶ教育学的意義が理解できる。 ・種々のプログラミング言語の存在を知り、プログラムの構造を理解できる。 ・プログラミング言語に関わらず、処理手順を考えることができる。			
授業の概要			
PythonやJavaScriptなど、さまざまなプログラミング言語が用いられている。とくに、プログラミング的思考と呼ばれる問題解決のための処理手順を考える能力は、日常生活の中でも必要だと言われている。本授業では、プログラミング言語やプログラムの構造の学習を通して、プログラミングの指導ができるだけでなく、プログラミング的思考ができるように指導する。			
授業計画			
第1回：高等学校「情報」全体の概要と「情報」でプログラムを学習する目的とねらい			
第2回：アルゴリズムとフローチャート			
第3回：VBAを利用プログラミングの基本 順次・選択・反復構造			
第4回：Pythonの概要とデータの取り扱い データの型、配列			
第5回：Pythonプログラミングの基本1：順次・選択・反復構造			
第6回：Pythonプログラミングの基本2：関数、簡単なプログラム			
第7回：Pythonプログラミングの基本3：プログラミングの作成：探索のプログラム			
第8回：Pythonプログラミングの基本4：プログラミングの作成：整列のプログラム			
第9回：Pythonプログラミングの応用1：オブジェクト指向プログラミング			
第10回：Pythonプログラミングの応用2：オープンデータの活用			
第11回：Pythonプログラミングの応用3：動的シミュレーション			
第12回：Pythonプログラミングの応用4：tkinterとコンパイル			
第13回：Python以外のプログラミング言語への応用（JavaScriptなど）			
第14回：高等学校「情報」授業におけるプログラミングの指導と教材づくり			
第15回：まとめと総括			

定期試験
テキスト ・ 自作した資料を配布します。
参考書・参考資料等 ・ 高等学校「情報I」教科書 ・ 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編」 ・ 「現場ですぐに使える！ Pythonプログラミング逆引き大全400の極意」秀和システム
学生に対する評価 毎時の課題（30％），授業態度（20％），高等学校「情報」指導案（20％），教材パッケージ（30％）

授業科目名： デジタル情報システム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：舟越久敏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本授業科目では、情報システムを構成する様々な要素技術を中心に学習し、情報システムの開発手法や活用事例について解説する。			
到達目標： ・ 数学の知識や情報に関する理論を使って、平均情報量や符号化率などを計算できる。 ・ 情報システムに関連するデジタル技術や電子技術について理解し説明できる。 ・ 情報システムを活用した具体的な事例を挙げ、その目的、機能などを説明できる。			
授業の概要			
現代社会の基盤として必要不可欠な存在となっている情報システムや情報ネットワークは、高度なデジタル技術と電子技術によって支えられている。本講義では、情報システムを構成する上で重要となる符号化技術や暗号化技術、認証技術などについて学習する。また、システムと人を繋ぐ重要な役割を果たすユーザーインターフェースについても取り上げ、最後に情報システムの開発手法や活用事例について解説する。			
授業計画			
第1回：情報システムとデジタル技術			
第2回：情報の大きさ、情報の符号化			
第3回：効率の良い符号化ーデータの圧縮ー			
第4回：データの誤り検出			
第5回：誤り検出符号と誤り訂正符号			
第6回：誤り訂正符号による誤り訂正の仕組み			
第7回：誤り訂正符号の作り方			
第8回：デジタル情報の暗号化技術			
第9回：デジタル署名、画像への情報埋め込み技術			
第10回：個人認証技術、アクセス制御技術			
第11回：システムのユーザーインターフェース			
第12回：コンピュータと情報システム			
第13回：情報システムの構築と維持			
第14回：情報システムの活用事例			

第15回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

魚田 勝臣 他，“コンピュータ概論 情報システム入門”，共立出版

学生に対する評価

レポート試験（60％），演習課題（40％）により評価する。

授業科目名： 教育情報学講義II（教育情報データベース論）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田好章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ この授業では、教育情報の処理を効果的に行うためのシステムの開発と活用の方法を学ぶ。データベースの基本概念と設計技法についての知識を身につけ、多様な教育情報の特質を理解し、教育実践の設計・評価や教育研究で活用できるデータベースシステムを構築する技能を習得する。加えて、教育学的な視点にもとづき、情報システムの可能性や課題を考察するための思考力や判断力を育成する。			
授業の概要 データベースを中心とする情報システムに関する概念的な理解を深め、教育学的な視点からシステムの仕様を定め、実習を通して教育情報を対象としたデータベースおよびアプリケーションを開発する。			
授業計画 ＊（括弧）は、情報技術に関する主要概念。（〔括弧〕）は、教育学的視点。〔括弧〕は、実習の内容。 1. 教育情報の特質（データ、情報、情報処理）（〔教育情報の種類と特質〕） 2. データベースの基本概念（レコード・フィールド、検索、フィルタ）〔Word、Excel〕 3. データ駆動型プログラミング（テキスト処理、正規表現）〔sh, sed, awk〕 4. 学習指導要領の分析（形態素解析）（〔学習指導要領〕）〔MeCab, awk〕 5. リレーショナルデータベースの設計1（テーブル）〔SQL〕 6. リレーショナルデータベースの設計2（リレーション）〔phpPgAdmin〕 7. データベースと連携したWebアプリケーションの設計1（検索）〔php, SQL〕 8. データベースと連携したWebアプリケーションの設計2（レコード操作）〔php, SQL〕 9. 相互評価システムの開発（〔教育評価・ループバック〕）〔php, SQL〕 10. 時系列データベースの設計（時系列データ解析）〔SQL、TimescaleDB〕 11. 授業分析システムの開発（〔教授学習過程・授業分析〕）〔SQL、TimescaleDB〕 12. 非リレーショナルデータベースの設計（NoSQL、グラフ型データベース）〔Neo4j〕 13. 教材構造可視化システムの開発（〔教材構造化・教材研究・授業設計〕）〔Neo4j〕 14. 知識表現と演算（XML、RDF、オントロジー）〔OWL〕 15. まとめ ～多様な教育情報とその活用のための情報システムのあり方～ ＊BYODで実施。ノートPCを用意すること。OSは問わないが、UNIX系のシェル・PostgreSQL・Apache・php等が利用できること。VirtualMachineの利用可。			
テキスト 授業内で配布する資料をもとに実施する。			
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。			
学生に対する評価 授業で指示する課題を評価する（知識20%、技能60%、考察20%）。			

授業科目名： ネットワークプログラミング ミング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福岡大輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ネットワークプログラミング言語とサーバの運用管理の技能を習得し、それらを学校教育に活用できる能力を養うことを目標とする。			
授業の概要 Webサーバのしくみや、運用・管理方法を理解するとともに、プログラミングや情報セキュリティに関する知識・技能を習得することを目的とする。Webサービスの基礎知識と各種フロントエンド言語とサーバサイド言語について学習し、インタラクティブなWebサービスを提供するシステム開発と運用・管理について実習を通じて修得する。			
授業計画： 第1回：Webサービスとプログラミング言語 第2回：Webサーバの運用と管理（開発環境の構築） 第3回：Webサーバとデータベース(SQL)のしくみ 第4回：フロントエンド言語 HTML（実習含む） 第5回：フロントエンド言語 CSS（実習含む） 第6回：フロントエンド言語 JavaScript（実習含む） 第7回：サーバサイドプログラミング言語の概要 第8回：サーバサイドプログラミング言語 PHPの基礎 第9回：サーバサイドプログラミング言語 PHPの実習 第10回：サーバサイドプログラミング言語 JavaScript（Node.js）基礎 第11回：サーバサイドプログラミング言語 JavaScript（Node.js）実習 第12回：Web APIの利用 第13回：Webサービスの開発と演習 第14回：Webサーバと情報セキュリティ 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 授業にて適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する。			
学生に対する評価 演習レポート(40%)と定期試験(60%)により評価を行う。			

授業科目名： 情報通信システム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松原正也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
我々の生活に不可欠となったインターネットをはじめとする情報通信技術について、その基礎的な技術やデジタル通信の成り立ち、また、さまざまな情報通信ネットワークサービスならびにWebの技術について習得する。			
授業の概要			
放送を含めて通信方式は無線、有線、衛星を巻き込んだデジタル通信にその中心を移している。その中核をなすインターネットの価値はホストコンピュータの数の自乗に比例する（メトカーフの法則）といわれている。この急激なトラフィックの増加に対して、インターネット本来の持つ脆弱性からやがて崩壊に至るという予測も聞かれる。本講義では 21 世紀の情報通信システム技術を概観し、理解する。			
授業計画			
第 1回：情報通信の必要性			
第 2回：アナログとデジタル			
第 3回：OSI基本参照モデル			
第 4回：通信プロトコル			
第 5回：LANとEthernet			
第 6回：インターネットとTCP/IP			
第 7回：ネットワークサービス			
第 8回：電子メールとメッセージングサービス			
第 9回：Webの活用(1)：Webのしくみ			
第10回：Webの活用(2)：Webの利用			
第11回：Webの活用(3)：Webアプリケーション			
第12回：ソーシャルネットワーク			
第13回：暗号技術			
第14回：情報通信システムの開発工程			
第15回：情報セキュリティと個人情報保護			
定期試験			
テキスト			
授業中に指示する。			
参考書・参考資料等			

授業中に指示する。

学生に対する評価

授業態度・課題レポート・小テストの結果・定期試験をもって評価する。

定期試験(50%)、課題レポート・小テスト(25%)、授業態度(25%)を基準とする。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：舟越久敏
情報メディア	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：			
本授業科目では、マルチメディアの基盤となる音声処理技術や画像処理技術、通信技術の基本的な事項について学習する。			
到達目標：			
・メディアの種類とその特徴について理解し、時と場面または環境に応じたメディアの使い方について説明できる。			
・さまざまな表現メディアについてデジタル化する方法を理解し、その仕組みについて説明できる。			
・それぞれのメディアで用いられるデジタル技術や電子技術について理解し説明できる。			
授業の概要			
コンピュータ技術やネットワーク技術の発展により、複数の情報伝達手段を統合させてより正確に情報を伝え、より高度なコミュニケーションを提供できるようになった。本授業科目では、様々な具体例を示しながら、マルチメディア技術の概要およびマルチメディアを扱うための情報処理技術の基礎について解説する。一部実習を含む。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：メディアの変遷			
第2回：マルチメディアに必要とされる工学的技術			
第3回：情報のデジタル化とそのプロセス			
第4回：音声信号のデジタル化			
第5回：【実習】サンプリング周波数と量子化ビット数について			
第6回：音声データの圧縮技術			
第7回：デジタルデータとしての画像表現			
第8回：【実習】Excelを用いた画像データの数値的処理			
第9回：代表的な画像ファイル形式とその特徴			
第10回：【実習】Excelを用いた画像データの圧縮処理			
第11回：映像データのデジタル化，デジタルテレビ技術			
第12回：アナログ変調とデジタル変調			
第13回：通信回線の種類とその特徴			

第14回：移動体通信の技術的変遷

第15回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

伏見 正則，“最新マルチメディア技術とその応用”，実教出版

加古 孝，鈴木 雅也，“MPEG理論と実践”，NTT出版

学生に対する評価

レポート試験（60％），演習課題（40％）により評価する。

授業科目名： メディアコミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 益子典文、今井亜湖 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ 本科目は、よりよいコミュニケーションを実現・実施するために必要な基本的な事項を学習する。			
到達目標 ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について理解する。 ・コミュニケーションモデルおよびコミュニケーションの仕組みを理解する。 ・メディアコミュニケーションの特徴と課題を理解する。			
授業の概要 情報通信技術の発達に伴い、様々なメディアを用いたコミュニケーションが登場している。これらのメディアコミュニケーションをよりよく行うためには、メディアの特性や様々なコミュニケーション手段の特徴の他に、メディアコミュニケーションの特徴や課題についても理解する必要がある。本科目では、事例を通して、メディアコミュニケーションについて学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：メディアの種類とその特徴（担当：今井） 第2回：コミュニケーションとコミュニケーション・モデル（担当：今井） 第3回：言語コミュニケーション（担当：今井） 第4回：非言語コミュニケーション（担当：今井） 第5回：社会的認知（担当：今井） 第6回：対人距離（担当：今井） 第7回：メディアコミュニケーション(1)：電話コミュニケーション（担当：今井） 第8回：メディアコミュニケーション(2)：コンピュータコミュニケーション（担当：益子） 第9回：メディアコミュニケーション(3)：マスメディア（担当：今井） 第10回：メディアコミュニケーション(4)：ヒューマンインタフェース（担当：今井） 第11回：メディアコミュニケーションの特徴（担当：今井） 第12回：メディアコミュニケーションの課題（担当：益子） 第13回：人間の行動モデル（担当：今井） 第14回：メンタルモデル（担当：今井） 第15回：ユーザビリティとアクセシビリティ（担当：今井）			

定期試験
テキスト 授業にて適宜紹介する.
参考書・参考資料等 授業にて適宜紹介する.
学生に対する評価 毎時の課題（40%），定期試験（60%）により評価を行う.

授業科目名： ウェブデザイン（デジタル教材開発）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今井亜湖 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 本科目では、様々な種類のメディアを統合してコンテンツを作成する方法の一つであるウェブデザインの基本的な事項について講義及び演習を通じて学習する。			
到達目標： ・ ウェブデザインにおけるHTMLおよびCSSの機能を理解する。 ・ HTMLおよびCSSの記述を理解し、様々な種類のメディアを統合したウェブサイトを作成できる。			
授業の概要 利用者の利便性（ユーザビリティ）を基本とした2次元インターフェースとしてのウェブデザインについて、ウェブサイトの設計および作成をととして学習する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：WWWのしくみ 第2回：ウェブデザインとは 第3回：HTML文書の構造と書式 第4回：情報の構造を表現するための記述 第5回：ハイパーテキストとハイパーリンク 第6回：様々な種類のメディアをウェブページに埋め込む方法 第7回：表とフォーム 第8回：ウェブサイトの設計・開発方法・配慮事項 第9回：HTMLによるウェブサイトの作成 第10回：視覚表現のためのCSSの構造と書式 第11回：装飾やデザインのためのCSSの記述 第12回：情報の構造をデザインするためのCSSの記述 第13回：レスポンシブウェブデザイン 第14回：HTMLおよびCSSによるウェブサイトの作成 第15回：開発したウェブサイトの相互評価 定期試験			

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業にて適宜紹介する。

学生に対する評価

毎時の課題（20%）、最終課題（40%）、定期試験（40%）により評価を行う。

授業科目名：教育情報学講義Ⅲ（情報メディア表現論）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本 将暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》本科目では、さまざまな種類のメディアを用いてwebコンテンツや動画コンテンツを作成する方法の基本的な事項について、講義と演習を通じて行う。			
《到達目標》本科目では、次の3点を到達目標とする。			
・授業で役立つメディアの種類と、その活用方法を理解する。 ・メディア及びコンテンツの教育学的意義について、視覚効果を手がかりに理解する。 ・授業で活用できる動画コンテンツを教育学的意義とメディアの特性を理解した上で、作成することができる。			
授業の概要			
コンピュータから周辺機器などのメディアを通じ、画像・映像などを使ったマルチメディア表現の技術を歴史・構造・内容から総合的に学び、教育的なメディア表現の可能性について考える。また制作実習において、目的に応じた活用・表現のあり方の相違を体感することで、伝えることのデザイン能力と機能性を培う。受講者が互いの成果を発表・鑑賞し合うことで、具体的な技術活用法を学び、感性や発想を磨く機会を設けたい。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（教育におけるメディア利用の変遷）			
第2回：ラジオとテレビの教育利用			
第3回：OHPの教育利用			
第4回：プレゼンテーションソフトの教育利用			
第5回：webコンテンツの教育利用			
第6回：マルチメディアの教育学的意義			
第7回：教育における視覚効果			
第8回：メディアコンテンツ教育学的意義1：行動主義的要素の理解			
第9回：動画教材コンテンツの作成1：編集基礎			
第10回：動画教材コンテンツの作成2：内容設計			
第11回：動画教材コンテンツの作成3：編集応用			
第12回：動画教材コンテンツの作成4：まとめ			
第13回：作成した動画コンテンツの相互評価			
第14回：メディアコンテンツ教育学的意義2：構成主義的要素の理解			

第15回：教育的動画コンテンツ配信の可能性と課題

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

毎時の課題（15％）、授業態度（15％）、作品課題（35％）、定期テスト（35％）

授業科目名：教育情報学講義Ⅰ（情報・職業教育論）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：坂本将暢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報と職業		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》 情報化社会、Society 5.0における職業の特徴・特性について、歴史的経緯、職業倫理、職業観・労働観を踏まえ、職業を通して社会に貢献する意識・意義を身につけさせる。 《到達目標》 ・ 産業の発展と職業観・労働観の変遷について理解できる。 ・ 情報化社会・Society 5.0における生徒の職業指導の意義と可能性について考えることができる。 ・ 情報技術を用いたビジネスの可能性、それに伴う危険について考え、両側面を踏まえた自身の職業観・労働観を醸成することができる。			
授業の概要			
十分な社会経験のない教職課程の学生が、情報化社会における職業のあり方や産業構造について学び、的確な進路指導や職業指導ができるようにする。とくに、本授業を通して職業観や労働観の形成の重要性やその方法について学ぶことで、教職に就こうとする学生のそれらを醸成する。			
授業計画			
第1回：情報化社会・Society 5.0			
第2回：情報化社会と情報システム			
第3回：情報化社会における職業観			
第4回：職業指導			
第5回：情報化社会の高等教育における人材育成			
第6回：情報技術と人材育成			
第7回：環境と労働観の変化			
第8回：インターネットビジネス			
第9回：企業内教育			
第10回：情報化社会における犯罪と法制度			
第11回：情報産業におけるビジネスモデル			
第12回：情報化社会におけるリスクマネジメント			
第13回：情報技術と消費行動			
第14回：知的財産の保護と活用			

第15回：デジタルデバインド

定期試験

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示す。

学生に対する評価

毎時の課題（15％）、Society 5.0における人材育成に関する課題レポート（15％）、OJTおよびOff JTに関する課題レポート（20％）、定期試験（50％）

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井亜湖
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：体系的な情報教育の一環として高等学校情報科の役割、小・中学校および他教科との連携の必要性、共通教科「情報」の教育目標・科目編成・学習内容・指導上の留意点を理解した上で、年間指導計画の作成法・授業設計法・学習指導案の作成法について学習する。			
到達目標：			
・情報教育における高等学校情報科の役割を理解する。 ・共通教科「情報」の教育目標、科目編成、各科目の学習内容について理解する。 ・共通教科「情報」の各学習内容の指導上の留意点を理解する。 ・共通教科「情報」におけるICT活用事例を知り、こうしたICTを活用するための学習環境のデザイン方法を知る。 ・インストラクショナルデザインの手法を用いた授業設計ができる。 ・学習指導案の構成を理解した上で、共通教科「情報」の授業設計および学習指導案の作成ができる。			
授業の概要			
高等学校共通教科「情報」の教育目標、科目編成、学習内容を情報教育の体系的カリキュラムの中に位置づけて理解し、実際に授業を行う際に必要とされる授業設計のための基礎知識および能力を習得し、学習指導案の作成ができるようにする。			
授業計画			
第1回：情報教育の目的とその体系的カリキュラム			
第2回：情報教育における高等学校情報科の位置づけ			
第3回：共通教科「情報」の目的と科目編成			
第4回：情報（データベース）の学習内容の分析			
第5回：情報（ネットワーク）の学習内容の分析			
第6回：共通教科「情報」の学習内容と指導上の留意点			
第7回：共通教科「情報」の学習評価			
第8回：共通教科「情報」におけるICT活用と学習環境デザイン			
第9回：授業設計法			
第10回：年間指導計画の作成			
第11回：年間指導計画の発表会・検討会			
第12回：学習指導案の作成			

第13回：学習指導案の発表

第14回：学習指導案の検討

第15回：総括：事例から情報科の授業設計をふりかえる

定期試験

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月告示 文部科学省）

学生に対する評価

毎時の課題（70%）、定期試験（30%）により評価する。

授業科目名： 情報科教育法 II		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今井亜湖
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：情報科教育法Iの講義内容をふまえ、本講義では高等学校専門教科「情報」の教育目標・科目編成、各科目の学習内容について理解し、模擬授業を通して、高等学校情報科の授業設計・実施・評価・改善を行うための基礎的知識・技能を習得する。				
到達目標：				
・ 共通教科「情報」と専門教科「情報」の違いを理解する。 ・ 専門教科「情報」の教育目標、科目編成、各科目の学習内容および指導上の留意点を理解する。 ・ 専門教科「情報」の各科目の背景となる学問領域を理解する。 ・ インストラクショナルデザインの手法を用いた授業設計ができる。 ・ 教科「情報」の探究学習（特に協働学習）におけるICTの効果的な活用方法について、演習を通して理解する。 ・ 発展的な学習内容を学習指導で位置づける必要性を理解し、そのための方法論を知る。				
授業の概要				
本科目では、高等学校専門教科「情報」に焦点を当て、共通教科「情報」との違い、専門教科「情報」の教育目標、科目編成、学習内容について学習する。また、情報科教育法Iで学習した授業設計法を用いて授業設計および指導案・教材の作成、模擬授業の実施・評価を行うことで、情報科の具体的な授業場面を想定した授業設計に必要な知識・技能を習得する。				
授業計画				
第1回：共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い				
第2回：専門教科「情報」の目標と科目編成				
第3回：専門教科「情報」の各科目の学習内容と指導上の留意点				
第4回：教科書分析				
第5回：教科書分析の結果の交流				
第6回：授業設計法				
第7回：教科「情報」の探究学習におけるICT活用法				
第8回：共通教科「情報」の授業設計				
第9回：授業設計に基づく学習指導案の作成				
第10回：模擬授業のための教材作成				
第11回：模擬授業のための教育環境のデザイン				

第12回：情報セキュリティに関する模擬授業と検討会
第13回：プログラミングに関する模擬授業と検討会
第14回：データベースの応用技術に関する模擬授業と検討会
第15回：総括：発展的な内容の扱い
定期試験

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

毎時の課題（70%）、定期試験（30%）により評価を行う。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：増沢 陽子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 憲法学の分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につけます。			
授業の概要 様々な現代的な事例に関して憲法を通じて考えることができるようにすることを目標とします。			
授業計画 第1回：イントロダクション（「法」や「法学」の基礎知識） 第2回：憲法とは 第3回：日本国憲法史 第4回：日本国憲法の基本原理 第5回：基本的人権1（人権総論） 第6回：基本的人権2（幸福追求権） 第7回：基本的人権3（法の下での平等） 第8回：基本的人権4（自由権） 第9回：基本的人権5（社会権） 第10回：統治機構1（総論） 第11回：統治機構2（国会） 第12回：統治機構3（内閣） 第13回：統治機構4（裁判所） 第14回：統治機構5（自治体） 第15回：平和主義 定期試験			
テキスト 講義資料を、NUCTの授業ページに提示します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で示します。			
学生に対する評価 学期末試験：7割、授業への積極的な参加：3割			

授業科目名： 健康・スポーツ科学実 習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：蛭田 秀一 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 運動・スポーツの実践による体力の維持増進に加え、スポーツを通して人間関係を構築する際に重要なコミュニケーション能力を育むことを目的とします。			
授業の概要 本授業では、（１）卓球における技術習得やゲームの実体験をとおして、日常生活では見失いがちな自分自身の身体の構造や機能を再確認し、さらに身体操作の方法を発展させることによって生涯にわたって様々なスポーツ活動に主体的に取り組んでいくための基本的能力を身につけます。（２）対人型ゲームの実施による他者との交流から、バーチャル（仮想）ではない生身の自己と他者の関係性やマナーについての理解を深めます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：用具の使用法と基本ルール及び安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム 第3回：卓球における各種基本打法の説明と学習、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム① 第4回：卓球における各種基本打法の説明と学習、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム② 第5回：卓球における各種基本打法の説明と学習、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム③ 第6回：卓球における各種基本打法の説明と学習、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム④ 第7回：シングルス試合の進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導① 第8回：シングルス試合の進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導② 第9回：シングルス試合の進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導③ 第10回：シングルス試合の進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導④ 第11回：シングルス試合の進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導⑤ 第12回：一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス試合の進め方の説明と実施① 第13回：一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス試合の進め方の説明と実施② 第14回：一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス試合の進め方の説明と実施③ 第15回：実技テスト、まとめ			
テキスト 必要に応じて授業で示します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で示します。			

学生に対する評価

授業への積極的参画、学習意欲、学習記録（70％）、技能習熟点（30％；実技テストを含む）

授業科目名： 健康・スポーツ科学実 習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：水野 貴正 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 運動・スポーツの実践による体力の維持増進に加え、スポーツを通して人間関係を構築する際に重要なコミュニケーション能力を育むことを目的とします。			
授業の概要 本授業では、ソフトボールの実施を通してスポーツを楽しむこと、体力の維持・向上を目的とします。また、チーム単位での活動を積極的に取り入れ、チーム内での教え合いや助け合いを積極的に行うことで履修者間のコミュニケーション能力向上を目指します。さらに、どうすれば自分がより高いパフォーマンスを発揮できるのか、ソフトボールの技能向上を通して、自らを客観的に評価・検討する能力を養います。			
授業計画 第1回：.ガイダンスとイントロダクション 第2回：ルールの説明 第3回：基本練習とミニゲーム（Tボール）：①キャッチボール 第4回：基本練習とミニゲーム（Tボール）：②バッティング 第5回：基本練習とミニゲーム（Tボール）：③ゴロ、フライのキャッチ 第6回：基本練習とミニゲーム（Tボール）：④内野、外野ノック 第7回：応用練習と練習試合：①ウィンドミル 第8回：応用練習と練習試合：②バント 第9回：応用練習と練習試合：③スラップ 第10回：応用練習と練習試合：④内外野の連携プレー 第11回：リーグ戦① 第12回：リーグ戦② 第13回：リーグ戦③ 第14回：リーグ戦④ 第15回：リーグ戦⑤			
テキスト 必要に応じて授業で示します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で示します。			

学生に対する評価

授業への積極的参画（70％），レポート（30％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：久米啓介
英語（コミュニケーション）	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目は、専門的学習のツールとして外国語の能力を高め、異文化理解を深めて、国際社会に相応しい教養を育むことが目的である。本授業では、リスニングとスピーキングを主としたコミュニケーションの能力を高め、ディスカッションやプレゼンテーションのための基礎力を養成します。			
授業の概要			
本授業では、リスニング能力、スピーキング能力及び批判的思考力の養成に特化した教科書を使用し、英語でのコミュニケーション能力を高める。教科書に即して、さまざまな話題を扱う。教科書を活用し、ペアもしくは小グループでの活動（ロールプレイやディスカッションなど）を中心に進める。また、集大成として教科書で扱った話題に関するプレゼンテーションも行います。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・オリエンテーション			
第2回：教科書 Unit 1: HEALTHY LIVES (健康)			
第3回：教科書 Unit 2: TECHNOLOGY TODAY AND TOMORROW (テクノロジーの発展)			
第4回：教科書 Unit 3: CULTURE AND TRADITION (世界の文化と伝統)			
第5回：教科書 Unit 4: A THIRSTY WORLD (水に関わる諸問題)			
第6回：教科書 Unit 5: INSIDE THE BRAIN (人間の脳)			
第7回：教科書 Unit 6: LET'S EAT! (食生活)			
第8回：教科書 Unit 7: OUR ACTIVE EARTH (自然災害)			
第9回：教科書 Unit 8: WONDERS FROM THE PAST (世界の文化遺産)			
第10回：教科書 Unit 9: SPECIAL SURVIVAL (生物の環境適応能力)			
第11回：教科書 Unit 10: ENTREPRENEURS AND INNOVATORS (革新的な起業家たち)			
第12回：プレゼンテーションにむけて			
第13回：プレゼンテーション準備			
第14回：プレゼンテーション(発表)			
第15回：プレゼンテーション(発表続き)，振り返り・まとめ			
テキスト			
PATHWAYS: Speaking, Writing, and Critical Thinking (2nd Edition) Book 2 Student Book			

with Online Workbook Access Code,
National Geographic Learning/Cengage Learning,
ISBN: 978-1-33-756252-2

参考書・参考資料等

必要に応じて授業で示します。

学生に対する評価

リアクション・ペーパー(毎授業の最後に感想や質問など書いて提出する) 10%

小さな課題(授業の前または後に適宜提出する) 20%

プレゼンテーション 20%

TOEFL-ITP 30%

e-Learning 20%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：内田綾子
英語（上級）	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目は、専門的学習のツールとして外国語の能力を高め、異文化理解を深めて、国際社会に相応しい教養を育むことが目的です。学会や社会で求められるプレゼンテーションを行えるよう、リーディング・スピーキング・リスニング・ライティングの各能力を高め、また4技能の統合を目指します。			
授業の概要			
自分の考えをその根拠とともにいかに説得力ある論理的な英文に組み立てるかというこれまでに英語（基礎）・（中級）で養った知識・技能と、英語（コミュニケーション）で培ったコミュニケーション能力に加え、プレゼンテーションに必要な知識や技能を習得し、学術英語を使いこなす能力を更に発展させます。			
授業計画			
第1回：Orientation			
第2回：The Physical Message			
第3回：Posture and Eye Contact			
第4回：Gestures			
第5回：Voice Inflection			
第6回：Presentation: The Physical Message			
第7回：The Visual Message			
第8回：Effective Visuals			
第9回：Explaining Visuals			
第10回：Presentation: The Visual Message			
第11回：The Story Message			
第12回：The Introduction			
第13回：The Body			
第14回：The Conclusion			
第15回：Presentation: The Story Message			
テキスト			
Charles LeBeau, Speaking of Speech, Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners, CENGAGE Learning, 2021（2021年改訂版）			

2,800+税 ISBN: 978-4-86312-385-4

参考書・参考資料等

必要に応じて授業で示します。

学生に対する評価

e-Learning 20%

授業(成績の80%) : 授業への積極的参画(20%)、プレゼンテーション(60%)で評価。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：原田邦彦
英語（セミナー）	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業科目は、専門的学習のツールとして外国語の能力を高め、異文化理解を深めて、国際社会に相応しい教養を育むことが目的です。本授業では、英語という言葉、その言語が培ってきた文化、および現代社会における英語文化についての深い教養を身につけます。			
授業の概要			
本講義では世界の様々な英語のCM（PSA 公共広告を含む）を見て、言語と異文化を学びます。授業はできるだけ英語で行います。各講義では様々なテーマの世界のCMが紹介され、英語表現等を理解した上で、それらのテーマについてまず自分で考え、ペアワークで相手と意見を交換し、さらにグループでディスカッションします。最後にグループで協力して英語でラジオCMを作ります。			
授業計画			
第1回：自己紹介、講義概要			
第2回：メディアリテラシー、公共広告とは			
第3回：アニメを使ったCM、PSA			
第4回：日本とアメリカの公共広告の歴史			
第5回：喫煙のCM、PSA			
第6回：差別のCM、PSA			
第7回：小テスト/CM 企画会議			
第8回：SNS に関するCM、PSA			
第9回：動物のCM、PSA			
第10回：政治、紛争のCM、PSA			
第11回：障害のCM、PSA			
第12回：CM、PSA録音			
第13回：CM、PSA編集			
第14回：CM、PSA発表			
第15回：自己評価とまとめ			
テキスト			
必要に応じて授業で示します。			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業で示します。			

学生に対する評価

授業への積極的貢献・小テスト 40%

e-Learning 教材 20%

期末プロジェクト（過程も評価） 40%

授業科目名： データ科学基礎		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：井手一郎
				担当形態：クラス分け
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標				
社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能を獲得すること目的とします。そのために、コンピュータリテラシ、データの記述と可視化、確率及び統計の基礎的概念について学びます。その際に、必要に応じて高校レベルの数学を用いた解説を行うことがあります。受講生が概要を直感的に理解することを優先します。				
授業の概要				
データ分析能力を身につけるうえで、最も重要な基礎的知識を習得します。				
授業計画				
第1回：ガイダンス、データ科学の役割				
第2回：データの取得・管理				
第3回：コンピュータリテラシ(情報倫理、情報セキュリティ、個人情報、匿名化、バイアス)				
第4回：データの記述と可視化（平均、分散・標準偏差）				
第5回：データの記述と可視化（相関係数）				
第6回：確率変数と確率分布				
第7回：母集団と標本、統計的推定と検定（統計的推定）				
第8回：統計的推定と検定（検定）				
テキスト				
教科書は指定しないが、毎回の授業で講義資料を配付する。				
参考書・参考資料等				
必要に応じて講義内で示します。				
学生に対する評価				
各回の講義内容に関する小テストの提出状況及び達成度による。小テストの提出状況及び得点を総合的に評価し、合計100点満点で60点以上を合格とする。				

授業科目名： データ科学基礎演習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：石井 秀宗 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、講義において習得した知識を基に受講生自身がプログラミングや計算機ツール等によるデータ分析の基礎的技能を習得することを目的とします。講義で取り扱った計算や分析手法をR, Excel 等を用いて受講生自身が実行します（主に文系学生向け）。			
授業の概要 データ科学基礎において習得した知識を基に、Excel及びRを用いて、統計分析やプログラミングなどを行うための基礎的技能を習得します。			
授業計画 第1回：コンピュータリテラシ・Excelの基本操作 第2回：Excelによるデータの可視化・要約 第3回：Excelによるデータ分析：t検定・分散分析・回帰分析 第4回：Rの基本操作，Google Colaboratoryの基本操作 第5回：Rによるデータの可視化・要約 第6回：Rによる統計的推定・検定：t検定・分散分析・カイ2乗検定 第7回：Rによる多変量データ解析：回帰分析・クラスタ分析 第8回：Rによる初級プログラミング			
テキスト 教科書は指定しないが、毎回の授業で講義資料を配付します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて演習内で示します。			
学生に対する評価 課外学習課題の提出状況および達成度による。各回の課題成績を，A，B，C，D，E，Fで評価する。課題を6回分以上提出し，平均がC以上の者を合格とします。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：生澤繁樹 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教育の理念、思想、歴史、制度についての基礎知識を獲得し、教育の基本概念や教育を成り立たせている諸要因の相互関係についての理解を深め、教育のあり方や営まれ方を原理的に考えていくための力を養う。過去から今日へといった教育の変遷や教育を取り巻く環境の変化を捉えたうえで、現代の教育が直面する課題や問題について議論し、これからの教育を様々な角度から検討し、問いなおせることを目指す。			
授業の概要			
教育の基本的概念、教育の歴史や思想について学びながら、過去から現在、そして未来へとつながる社会、学校、家庭の様々な教育課題について考えてみたい。授業では、教育を原理的に思考するための基礎的な知識、文献や資料を紹介し、発表やグループ討論の機会等を提供する。教育についての多様な見方、考え方に触れながら、みずからの教育観を振りかえり、現代の課題を丁寧に捉え、教育のこれからのを批判的かつ創造的に問いなおしていく機会にしていきたい。			
授業計画			
第1回：イントロダクション——教育の思想と歴史を学ぶために			
第2回：「教育」とはなにか？という問いから考える			
第3回：〈近代教育〉の誕生——「教えない社会」から「教える社会」へ			
第4回：カリキュラムの原理と思想——学校で学ぶことはいかに社会に役立つのか？			
第5回：「人間」とはなにか？という問いから考える			
第6回：人間の成長と発達の思想史——カスパー・ハウザーをめぐる謎			
第7回：野生児ヴィクトールの悲劇			
第8回：成長と発達の条件として家庭と社会			
第9回：アイデンティティと自己形成——周りからどう見られているか？			
第10回：「授業実践」とはなにか？という問いから考える			
第11回：探究的な学びの意味——答えのない問題について教え・学ぶことはできるか？			
第12回：文化的差異とコミュニケーションをめぐる学びの原理			
第13回：「教師」とはなにか？という問いから考える			
第14回：成長と発達の条件としての学校組織・文化の思想史			
第15回：まとめと課題——理念、思想、歴史から教育と学校を問いなおすこと			
テキスト			
松下晴彦・伊藤彰浩・服部美奈編『教育原理を組みなおす——変革の時代をこえて』名古屋大学			

出版会、2021年。

参考書・参考資料等

テキストと配信資料を使用して授業を進める。テキストの内容からもレポート等の課題を出すので、事前によく読んでおくこと。その他の参考文献や資料については授業にて適宜指定・紹介する。授業内容をより深く理解するために、下記の文献を参考書として推奨しておく。

田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年。

真壁宏幹編『西洋教育思想史 第2版』慶應義塾大学出版会、2020年。

教育思想史学会編『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房、2017年。

学生に対する評価

最終レポート20%、小テスト40%、課題提出40%

授業内・外の課題の提出状況、小テストおよび最終レポートの成績から総合的に評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 塚原利理
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教育の理念、思想、歴史、制度についての基礎知識を獲得し、教育の基本概念や教育を成り立たせている諸要因の相互関係についての理解を深め、教育のあり方や営まれ方を原理的に考えていくための力を養う。過去から今日へといたる教育の変遷や教育を取り巻く環境の変化を捉えたうえで、現代の教育が直面する課題や問題について議論し、これからの教育を様々な角度から検討し、問いなおせることを目指す。			
授業の概要			
教育の基本的概念、教育の歴史や思想について学びながら、過去から現在、そして未来へとつながる社会、学校、家庭の様々な教育課題について考えてみたい。授業では、教育を原理的に思考するための基礎的な知識、文献や資料を紹介し、発表やグループ討論の機会等を提供する。教育についての多様な見方、考え方に触れながら、みずからの教育観を振りかえり、現代の課題を丁寧に捉え、教育のこれからのを批判的かつ創造的に問いなおしていく機会にしていきたい。			
授業計画			
第1回：「教育原理」では何を扱うのか ―授業概要の説明			
第2回：「教育の必要性」―学ぶ意味・教育の理念と目的			
第3回：「教育思想（１）」―古代～近世；学校の誕生・リベラルアーツ			
第4回：「教育思想（２）」―近世～近代；子どもの誕生・ルソー等			
第5回：「教育思想（３）」―19～20世紀；公教育の始まり・ペスタロッチ・フレーベル等			
第6回：「教育思想（４）」―アメリカの新教育運動；J.デューイを中心に			
第7回：「日本教育史」（１）―明治～第2次世界大戦まで			
第8回：「日本教育史」（２）及び「中間レポート」―戦後の教育（レポート：前半講義題目に沿って出題）			
第9回：「現代日本の教育課題（１）」―階層と格差の再生産			
第10回：「現代日本の教育課題（２）」―ジェンダーと教育			
第11回：「現代日本の教育課題（３）」―多文化共生とグローバル教育			
第12回：「教育の原則と現行教育検討の指標（１）」―教育の原則・教師の存在			
第13回：「教育の原則と現行教育検討の指標（２）」―児童の権利・発達と教育			

第14回：「教育の原則と現行教育検討の指標（3）」—学力と教育評価

第15回：「まとめ」—学校教育の可能性

テキスト

『教育原理を組み直す——変革の時代を超えて』松下晴彦・伊藤彰浩・服部美奈編，名古屋大学出版会（ISBN978-4-8158-1045）

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

中間レポート（30％）期末レポート（50％）毎授業時提出の授業課題（20％）で評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：津田純子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理論に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教育の理念、思想、歴史、制度についての基礎知識を獲得し、教育の基本概念や教育を成り立たせている諸要因の相互関係についての理解を深め、教育のあり方や営まれ方を原理的に考えていくための力を養う。過去から今日へといった教育の変遷や教育を取り巻く環境の変化を捉えたうえで、現代の教育が直面する課題や問題について議論し、これからの教育を様々な角度から検討し、問いなおせることを目指す。			
授業の概要			
教育の基本的概念、教育の歴史や思想について学びながら、過去から現在、そして未来へとつながる社会、学校、家庭の様々な教育課題について考えてみたい。授業では、教育を原理的に思考するための基礎的な知識、文献や資料を紹介し、発表やグループ討論の機会等を提供する。教育についての多様な見方、考え方に触れながら、みずからの教育観を振りかえり、現代の課題を丁寧に捉え、教育のこれからのを批判的かつ創造的に問いなおしていく機会にしていきたい。			
授業計画			
第1回：はじめに ― 教員養成における教育原理の意味			
第2回：近代教育誕生の思想的基盤 「子ども期の発見」と野生児の発見、教育必要性論			
第3回：近代教育思想の展開 人間の生得的な学ぶ力と人間形成・自己形成論			
第4回：近代公教育制度の成立と展開 20世紀学校化の矛盾			
第5回：近代公教育制度の矛盾への批判 20世紀児童中心主義、21世紀学習重視の教育改革			
第6回：現代教育改革の理念 生涯学習、インクルーシブ教育			
第7回：インクルーシブ教育改革の現在の課題―川本さんを囲んで			
第8回：ポストモダンの「近代教育諸装置」論議			
(1) 体罰・懲戒問題、			
第9回：(2) 校則(男女交際の禁止)を問う、包括的性教育			
第10回：(3) 歴史教育論争問題			
第11回：(4) 大学入試問題、大学教育の三位一体の改革			
第12回：現在の教育改革を考える(教育中心から学習中心へ)			
(1) 新しい教育・学習評価(パフォーマンス評価)			

第13回：（2）学習のための評価手段、ポートフォリオ、ルーブリック

第14回：（3）PISA調査、「主体的、対話的で深い学び」

第15回：専門職としての教師像、インクルーシブ教育における専門性とは

レポート試験

テキスト

特に指定しない。プリントを配布して授業を行う。

参考書・参考資料等

汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房ISBN11920599／田中耕治編著『グローバル化時代の教育評価改革－日本・アジア・欧米を結ぶ』日本標準ISBN9784820805953／奈須正裕『資質・能力と学びのメカニズム』東洋館出版社ISBN9784491033631／OECD教育研究革新センター編著小泉英明監修『脳から見た学習－新しい学習科学の誕生』明石書店ISBN9784750333144／田中智志編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会ISBN9784130520775中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店ISBN4000004166／J. H. ギル著田中正弥他訳『学びへの学習－新しい教育哲学の試み』青木書店ISBN425020328X／江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会ISBN9784815805869／佐伯 胖『《学び》の構造』ISBN4491002770など

学生に対する評価

授業予習課題シート、授業時の論議（30％）、小レポート（30％）、レポート試験（期末レポート）（40％）とする。

授業科目名： 教職基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森田耕治 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
本講義では、児童生徒の現状や教員の職責の理解をとおして、教職の意義、教員の役割、教員研修の必要性、またその基盤となる制度について学び、将来、教職に就くための意欲や適性を高めるために必要な基礎作りをする。さらに、教員の資質・使命についての認識を深め、望ましい教員像を考察する。そのために、レポートを作成したりグループで討論をしたりして論理的・批判的思考力と、自己研鑽する姿勢を身に付ける。			
授業の概要			
教職の意義、学校の役割、教師の職務と専門性、組織における教師としての成長の可能性、教育政策の理解、教育改革の理解、教員採用候補者選考試験などについて、様々な資料を用いて解説する。必要に応じてグループ討議や発表の機会を設け、教職についての理解を促す。			
授業計画			
1.開講にあたって ～講義の概要、グループ作り～（自己理解、他者理解、メンター、帰属集団） 2.教職の意義①～なぜ教師を目指すのか～（豊かな人間性、専門性、同僚性、資質・能力） 3.教職の意義②～生徒の何を育てるのか～（発達課題、自己肯定感、レジリエンス、知・徳・体） 4.学校の役割①～安心・安全で魅力・活力のある学校とは～（校風、隠れたカリキュラム、部活動） 5.学校の役割②～生徒保護者と地域社会の期待や苦情とは～（学校への要望、学校評価、説明責任） 6.教師の役割①～今、求められる学習指導とは～（学習動機、PISA 型学力、授業改善の方向性） 7.教師の役割②～今、求められる生徒指導とは～（社会性の獲得、自己実現の探求、体罰禁止） 8.教師の役割③～特別支援教育・キャリア教育とは～（様々な障害と支援、キャリア発達と支援） 9.教員の職務服務①～学校組織とチーム学校とは～（学校組織、TALIS 調査、教員の現状と課題） 10.教員の職務服務②～教員の服務・義務・権利とは～（教育法規、服務規律、不祥事、研修、休暇） 11.教育政策の理解①～教育改革国民会議と改正教育基本法とは～（17 の提案、新旧教育基本法） 12.教育政策の理解②～教育改革と学習指導要領の変遷とは～（時代背景と学習指導要領の意義） 13.教育改革の理解①～英国の目指した教育改革とは～（M.サッチャー前後の教育改革の意義） 14.教育改革の理解②～米国の目指した教育改革とは～（G.W.ブッシュ前後の教育改革の意義） 15.閉講にあたって ～講義のまとめ、教員採用試験情報、アンケートの実施、レポート試験～ ※レポート試験（3 回の課題レポート提出で期末試験に代える）			
テキスト			
教科書は使用しないが、毎回授業テーマに沿った参考資料およびワークシートを配布する。			

参考書・参考資料等

文部科学省・国立教育政策研究所、都道府県教育委員会・教育センターなどのホームページ掲載資料、新聞記事等を参考資料とするほか、次の参考書（下記①②）を紹介する。

①ガイドライン学校教育心理学～教師としての資質を育む～ 大野木裕明ほか ナカニシヤ出版

②世界の学校～教育制度から日常の学校風景まで～ 二宮 皓編著 学事出版

学生に対する評価

3回の課題レポート（ワークシートの理解度レポート（50%）及び選択レポート（50%））の内容により総合的に評価する。

授業科目名： 教職基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦慶一郎、柴田好章、 Sarkar Arani Mohammad Reza、坂本將暢
			担当形態： オムニバス・複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
本講義では、児童生徒の現状や教員の職責の理解をとおして、教職の意義、教員の役割、教員研修の必要性、またその基盤となる制度について学び、将来、教職に就くための意欲や適性を高めるために必要な基礎作りをする。さらに、教員の資質・使命についての認識を深め、望ましい教員像を考察する。そのために、レポートを作成したりグループで討論をしたりして論理的・批判的思考力と、自己研鑽する姿勢を身に付ける。			
授業の概要			
教職の意義、学校の役割、教師の職務と専門性、組織における教師としての成長の可能性、教育政策の理解、教育改革の理解、教員採用候補者選考試験などについて、様々な資料を用いて解説する。必要に応じてグループ討議や発表の機会を設け、教職についての理解を促す。			
授業計画			
1. 開講にあたって ～講義の概要～（杉浦・柴田・Arani・坂本）			
2. 教職の意義 1 ～どのような教育を目指すのか～（教育振興基本計画、目指す教師像）（杉浦）			
3. 教職の意義 2 ～生徒の何を伸ばすのか～（発達課題、教師の姿勢）（Arani）			
4. 学校の役割 1 ～保護者と地域の期待にどう応えるか～（学校評価）（杉浦）			
5. 学校の役割 2 ～魅力と活力のある学校とは～（教育課程）（杉浦）			
6. 教師の役割 1 ～学習指導とは～（動機付け、知能観、カリキュラムマネジメント）（杉浦）			
7. 教師の役割 2 ～生徒指導とは～（自己指導能力、問題行動への対応）（杉浦）			
8. 教師の役割 3 ～特別支援教育・キャリア教育とは～（インクルーシブ教育、キャリア教育）（坂本）			
9. 教員の職務～教員の多忙化・学校組織の活性化～（働き方改革、学校の組織・運営）（杉浦）			
10. 教員の服務～教職員の服務・休暇制度・研修～（服務規律、休暇制度、研修制度）（杉浦）			
11. 教育政策の理解～学習指導要領の変遷～（経験主義と系統主義、授業改善）（柴田）			

- | |
|---|
| 12. 教育法令の理解～教育基本法の理念とは～（改正の経緯、理念、新旧教育基本法）（杉浦） |
| 13. 教育行政 1 ～国、地方、学校～（教育法制、教育委員会）（杉浦） |
| 14. 教育行政 2 ～新たな学校作りとは～（チーム学校、新たな専門職と地域人材）（杉浦） |
| 15. 閉講にあたって ～転換期の教師像～ （杉浦・柴田・Arani・坂本） |

テキスト

教科書は使用しないが、毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

「現代教育概論 第4次改訂版」（佐藤春雄著、学陽書房、ISBN:431361141X）、「教職員ハンドブック 第3次改訂版」（東京都教職員研修センター監修、都政新報社、ISBN:4886142125）
--

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出するワークシートの内容（60％）、最終レポート内容（40％）

授業科目名： 教職基礎論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三羽光彦 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ				
本講義では、児童生徒の現状や教員の職責の理解をととして、教職の意義、教員の役割、教員研修の必要性、またその基盤となる制度について学び、将来、教職に就くための意欲や適性を高めるために必要な基礎作りをする。さらに、教員の資質・使命についての認識を深め、望ましい教員像を考察する。そのために、レポートを作成したりグループで討論をしたりして論理的・批判的思考力と、自己研鑽する姿勢を身に付ける。				
授業の概要				
教職の意義、学校の役割、教師の職務と専門性、組織における教師としての成長の可能性、教育政策の理解、教育改革の理解、教員採用候補者選考試験などについて、様々な資料を用いて解説する。必要に応じてグループ討議や発表の機会を設け、教職についての理解を促す。				
授業計画				
第1回：教えることと学ぶこと——子どもの学習権と教師の教育権				
第2回：親の子どもへの期待と教育要求——保護者と親との関係				
第3回：公教育としての学校教育——学校の公共性				
第4回：生徒の発達段階と教育——中学校・高等学校の教師の課題				
第5回：教師の専門性——専門科目の教授と教育的視点				
第6回：教師の身分と職務——公立学校教員の身分・義務・研修				
第7回：チームとしての教員集団——同僚性のなかの成長				
第8回：カリキュラムマネジメントと教員組織				
第9回：学校経営と校務分掌、学校の危機管理				
第10回：地域の中の教師——学校と地域の連携				
第11回：教員の勤務実態と教員を取り巻く諸課題				
第12回：教師の教養と望ましい教師像				
第13回：AI時代を生き抜く学力と、これからの教員				
第14回：教員以外の進路選択について				
第15回：まとめと定期試験定期試験				
テキスト				
文科省『高等学校学習指導要領』新版（文科省サイトなどで入手すること）				
参考書・参考資料等				

授業中適宜資料を配付する。
学生に対する評価 定期試験（75%）、中間レポート（25%）で評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井拓児 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
①現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。			
②学校の社会的役割を自覚し、教員の使命を主体的に担う態度を養う。			
授業の概要			
本授業では、現代の学校教育に影響を与える社会環境要因や教育改革・教育政策の動向を検討しながら、学校教育制度や教育財政のしくみに関する基礎的な知識を習得することを目指す。学校安全、いじめ・体罰・貧困の問題など、近年の教育をとりまく多様な課題に対し、客観的な事実やデータをもとに論拠立てて述べるができるようになるなど主体的に考察する力を養うことをねらいとする。			
授業計画			
1. 子どもの実態からみる日本の学校制度			
2. 近代公教育制度の成立と展開			
3. 教育を受ける権利の保障（1）―義務教育概念の検討―			
4. 教育を受ける権利の保障（2）―教育の無償性と就学支援―			
5. 子どもの学習権保障と一般人権（1）―懲戒と体罰―			
6. 子どもの学習権保障と一般人権（2）―校則・いじめ・虐待―			
7. 学校の安全と事故防止			
8. 教員の職務と身分保障			
9. 学校づくりと教育課程（1）―教育課程・教科書法制の基本的枠組み―			
10. 学校づくりと教育課程（2）―地域に根ざす教育課程づくり―			
11. 学校の福祉的機能と地域連携			
12. 学校の設置・管理と地方教育行政制度			
13. 国の教育政策と教育行政			
14. 今日の教育問題と教育改革			
15. 教育制度をめぐる諸問題と課題の考察			
レポート			
テキスト			
井深雄二・大橋基博・中嶋哲彦・川口洋誉『テキスト教育と教育行政』（勁草書房、2015年）。			

石井拓児『学校づくりの概念・思想・戦略—教育における直接責任性原理の探究—』（春風社、2021年）。

参考書・参考資料等

勝野正章・窪田眞二・今野健一・中嶋哲彦・世取山洋介『教育小六法』2022年版（学陽書房）。

資料を作成し配布する。

学生に対する評価

授業期間中に提出する小レポート(40%)と、期末に提出するレポート(60%)により評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：米津直希 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
①現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。			
②学校の社会的役割を自覚し、教員の使命を主体的に担う態度を養う。			
授業の概要			
本授業では、現代の学校教育に影響を与える社会環境要因や教育改革・教育政策の動向を検討しながら、学校教育制度や教育財政のしくみに関する基礎的な知識を習得することを目指す。学校安全、いじめ・体罰・貧困の問題など、近年の教育をとりまく多様な課題に対し、客観的な事実やデータをもとに論拠立てて述べるができるようになるなど主体的に考察する力を養うことをねらいとする。			
授業計画			
1. 現代の教育と教育制度			
2. 日本国憲法と教育基本法			
3. 教育基本法の立憲的解釈			
4. 教育を受ける権利と義務教育			
5. 教職員の権利と責務			
6. 公教育の無償性と教育財政			
7. 教育行政の原理と教育委員会制度の理念			
8. 教育委員会制度と教育行政改革			
9. 教育課程行政の仕組みと課題			
10. 教育制度の国際比較			
11. 教育自治を活かした学校運営			
12. 学校・家庭・地域の連携			
13. 学校の保健安全と教員の対応			
14. 現代における教育と教育行政の変容			
15. 教育制度をめぐる諸課題の考察			
テキスト			
資料を作成し配布する。			
参考書・参考資料等			

井深雄二・大橋基博・中嶋哲彦・川口洋誉『テキスト教育と教育行政』（勁草書房、2015年10月、ISBN:978-4326251070）、勝野正章・窪田眞二・今野健一・中嶋哲彦・世取山洋介『教育省六法』（学陽書房、2021年1月、ISBN:978-4313011977）

学生に対する評価

授業後の感想提出：30%、中間レポート：30%、最終レポート：40%

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤健治 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
①現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。			
②学校の社会的役割を自覚し、教員の使命を主体的に担う態度を養う。			
授業の概要			
本授業では、現代の学校教育に影響を与える社会環境要因や教育改革・教育政策の動向を検討しながら、学校教育制度や教育財政のしくみに関する基礎的な知識を習得することを目指す。学校安全、いじめ・体罰・貧困の問題など、近年の教育をとりまく多様な課題に対し、客観的な事実やデータをもとに論拠立てて述べることができるようになるなど主体的に考察する力を養うことをねらいとする。			
授業計画			
1. 現代の学校と教育制度について			
2. 公教育の基本原則について：日本国憲法と教育基本法			
3. 文部科学省と教育政策について			
4. 教育委員会制度について			
5. 教育財政のしくみについて			
6. 教育課程行政と教科書制度について			
7. 義務教育制度と教育を受ける権利について			
8. 学校組織と学校経営について：「チームとしての学校」・学校と地域の連携			
9. 教職員制度と教師の仕事について			
10. 子どもの権利といじめ問題について			
11. 子どもの貧困と高校中退問題について			
12. 学校教育における現代的課題			
13. 就学前教育と子ども子育て支援行政について			
14. 学校安全と危機管理について			
15. 教育制度から見る現代社会（まとめ）及び 定期試験（筆記試験）			
テキスト			
横井敏郎編著『教育行政学（第3版）-子ども・若者の未来を拓く』八千代出版、2020年、ISBN978-4-8429-1784-9			

参考書・参考資料等

授業の中で、適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（60％）及び毎回の授業コメントや課題等（40％）に基づき総合的に評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中谷素之 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ ・ 幼児、児童、生徒の心身の発達のプロセスの基礎を理解する。 ・ 幼児、児童、生徒における学びのメカニズムの理論的な基礎を理解し、家庭や学校現場の実 際を踏まえて、その改善や応用を考える。			
授業の概要 学校教育場面において必要な基礎理論として幼児・児童及び生徒の心身の発達および学習の 過程について学ぶ。また、子どもの個性の発達に応じた教育的対応についての理解を深め、教 育現場においてさまざまな問題に対応するための知識を習得する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育心理学とは何か 第2回：思考の発達 第3回：概念的発達 第4回：アタッチメント 第5回：青年期の心理 第6回：学習の理論 第7回：教授方法 第8回：学習の方法 第9回：動機づけとは 第10回：自ら学ぶとは 第11回：教育評価 第12回：友人関係 第13回：教師と生徒の人間関係 第14回：学校への適応 第15回：まとめ：教育における心理学			
テキスト 中谷素之・中山留美子・町岳 2022 エピソードに学ぶ教育心理学 有斐閣ストゥディア 20 22. 10. 出版予定（購入方法は初回授業時に指示する）			
参考書・参考資料等 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 2019 やさしい教育心理学 第5版 有斐閣 ISBN-10：4641221464			

中澤潤 2008 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房 ISBN-10 : 4623051048

その他、授業において適宜紹介する

学生に対する評価

平常点（プレゼンテーション・毎回のコメント・受講態度）70%、最終レポート30%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高村和代 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ ・ 幼児、児童、生徒の心身の発達のプロセスの基礎を理解する。 ・ 幼児、児童、生徒における学びのメカニズムの理論的な基礎を理解し、家庭や学校現場の実 際を踏まえて、その改善や応用を考える。			
授業の概要 学校教育場面において必要な基礎理論として幼児・児童及び生徒の心身の発達および学習の 過程について学ぶ。また、子どもの個性の発達に応じた教育的対応についての理解を深め、教 育現場においてさまざまな問題に対応するための知識を習得する。			
授業計画 1．教育心理学とは 2．発達と学習 3．認知の発達 4．社会性の発達 5．自己意識の発達 6．人間関係の発達 7．学級での人間関係 8．学習理論 9．記憶 10．動機づけ 11．教授方法 12．主体的・対話的な教授方法 13．教育評価 14．近年の教育問題を考える 15．総括 定期試験 テキスト 西口利文・高村和代（編）『教育心理学』ナカニシヤ出版 ISBN-13：978-4779504778 参考書・参考資料等 授業時間内に適宜紹介する。			

学生に対する評価

授業内で課される課題(60%) , レポート試験 (40%)

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：解良 優基 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
発達・教育心理学の観点から児童・生徒への教育的支援に関する知識を習得し、学級集団への指導や教育評価などへの応用について理解を深めることが到達目標である。人間の基本的な学習・発達過程を心理学の観点から理解し、児童・生徒の心身の発達に応じた教育のあり方について考えを深めることを目指す。			
授業の概要			
学校教育場面において必要となる基本的な理論として、幼児・児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について学ぶ。本授業ではほぼ毎回、授業外学習として次回授業に向けた予習が求められる。また、授業時には小グループに分かれた協同的な学びを軸に据えて進行する予定である。具体的には、予習の内容を踏まえ、教育現場の事例や映像教材などに対する分析をグループで行うことが求められる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションと教育心理学の概要			
授業の目的と講義内容の概要、および履修上の注意の説明を受けたうえで、教育心理学の概要を学ぶ			
第2回：協同的な学びの重要性			
学校現場で重視される協同的な学びの意義や留意点について学ぶ			
第3回：学習の理論			
児童・生徒の学習の基盤となる理論について学び、その応用可能性について理解を深める			
第4回：記憶と自己調整学習			
記憶のメカニズムについて学び、児童・生徒の効果的な学習方法について理解を深める			
第5回：認知発達とメタ認知			
児童・生徒の認知発達についての基本的な知見を学び、近年重視されているメタ認知の支援についても理解を深める			
第6回：社会性の発達と友人関係			
社会性の発達過程について学び、特に友人関係の重要性やいじめの問題について理解を深める			
第7回：動機づけの理論①			
欲求論・感情論に基づいた代表的な動機づけの理論について学ぶ			
第8回：動機づけの理論②			
認知論に基づいた代表的な動機づけの理論について学び、児童・生徒の動機づけ支援について理			

解を深める

第9回：教授方法

代表的な教授方法について学び、効果的な授業のあり方について理解を深める

第10回：学級経営

教師—生徒関係に関する知見を学ぶとともに、映像教材をもとに教師の具体的な学級経営について分析する

第11回：生徒指導と教育相談

生徒指導・教育相談の意義を学び、学校において子どもたちが直面する諸問題について理解を深める

第12回：特別支援教育

特別支援教育の概要について学び、発達障害やその他の精神疾患等の問題に対する理解を深める

第13回：教育評価①

教育評価の意義を学び、児童・生徒の学習を促進する評価のあり方について理解を深める

第14回：教育評価②

新しい学びの評価のあり方について学ぶとともに、本授業の試験を実施する

第15回：まとめ

前週に行った試験の解説と振り返りを行い、授業全体のまとめを行う

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）. やさしい教育心理学 有斐閣

中谷素之・中山留美子・町岳（2022）. エピソードに学ぶ教育心理学 有斐閣

上記以外にも、講義内にて適宜紹介する

学生に対する評価

平常点による評価（受講態度，課題の提出50%），試験成績50%による総合評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 永田雅子、大山卓
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 個別支援を必要とする子どもおよび家族に対する理解と支援			
授業の概要 子どもの発達および学習のプロセスおよび個別支援を必要とする子どもと家族の支援の在り方を理解するとともに、特別支援教育の基本的に理念・体制について十分な理解に基づいた支援計画を立てることができることを目標とする。			
授業計画 第 1 回：特別支援教育とは（担当；永田） 特別支援教育の歴史とその意義について制度の変遷からその理念と仕組みを学ぶ 第 2 回：障害とは（担当；永田） 障害の背景となる疾患や診断名などを知るとともに、様々な障害についての学習および生活上の困難について、理解をする 第 3 回：発達および学習のプロセス - 特別な支援のニーズの把握とその支援（担当；永田） 発達および学習のプロセスの基本的な理解を学ぶとともに、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもたちについて理解する 第 4 回：発達障害および軽度知的障害への支援（担当；大山） 発達障害および軽度知的障害の支援方法について代表的な理論および具体的な支援方法について知る 第 5 回：特別支援の制度および枠組みを知る（担当；大山） 特別支援の教育課程の中での位置づけおよび個別の支援計画の枠組を知る 第 6 回：特別支援計画の立て方および校内連携の在り方（担当；大山） 具体的な特別支援計画を立て、校内でどのように連携をしていくのか理解をする 第 7 回：特別支援を必要とする子どものライフサイクル（担当；永田） ゲスト講師を招き、特別支援を必要とする子どものライフサイクルと年齢段階に応じた支援の在り方を学ぶ 第 8 回：全体ディスカッション（担当；永田） 家族であり特別支援教育にかかわった教員の話聞くことで当事者に寄り添って支援を行うことの意味を理解するとともに、自分自身の障害感などについて振り返りを行う			

定期試験：レポート課題を提示する
テキスト 配布資料を用意する
参考書・参考資料等 松本真理子・永田雅子・野呂健二監修「心の発達支援シリーズ」全6巻 明石書店 2016 竹田契一・上野一彦・花熊暁監修 特別支援教育の理論と実践 全3巻 金剛出版 2012
学生に対する評価 授業への積極的参加および小レポート40%、定期試験60%で評価を行う。

授業科目名： 教育課程論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：原田信之 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）		
授業の到達目標及びテーマ 中等教育段階において学習指導要領を基準として教育課程が果たす役割や意義について理解し、学校組織の一員として具体的な教育課程の編成ができる教育実践力を修得する。とくに、学習指導要領改訂の歴史、中央教育審議会答申を踏まえた、教育課程編成や指導計画作成の基本原理や方法、カリキュラム・マネジメントの必要性や実際を説明できることを目指す。				
授業の概要 急速な社会変化や多様で複雑な教育問題を受けて、一定期間ごとに教育内容である学習指導要領の改訂が行われている。その中で、生徒の人格的発達を保障するという教育の目的が、学習指導要領を通して学校の現場でどのように計画され、実践されているのかを具体的に検討する。学習指導要領の変遷と各時代の背景、各学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント等、教育課程編成の役割や機能について取り上げる。				
授業計画 第1回：教育課程の基準としての学習指導要領 第2回：教育課程編成の基本原理 第3回：学校における教育課程編成のケーススタディ 第4回：学習指導要領の変遷とその社会背景（戦後から第六次改訂まで） 第5回：学習指導要領の変遷とその社会背景（第七次改訂から2017・18年告示版学習指導要領へ） 第6回：学力とカリキュラム 第7回：学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント 第8回：全体のまとめ 定期試験				
テキスト 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説・総則編』				
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説・総則編』、原田信之編著『カリキュラム・マネジメントと授業の質保証』（北大路書房、2018年）				
学生に対する評価 講義中の小レポート（記述カード）や参加状況（40％）、定期試験（60％）により評価する。				

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：富田 福代 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中等教育段階において学習指導要領を基準として教育課程が果たす役割や意義について理解し、学校組織の一員として具体的な教育課程の編成ができる教育実践力を修得する。とくに、学習指導要領改訂の歴史、中央教育審議会答申を踏まえた、教育課程編成や指導計画作成の基本原則や方法、カリキュラム・マネジメントの必要性や実際を説明できることを目指す。			
授業の概要 急速な社会変化や多様で複雑な教育問題を受けて、一定期間ごとに教育内容である学習指導要領の改訂が行われている。その中で、生徒の人格的発達を保障するという教育の目的が、学習指導要領を通して学校の現場でどのように計画され、実践されているのかを具体的に検討する。学習指導要領の変遷と各時代の背景、各学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント等、教育課程編成の役割や機能について取り上げる。			
授業計画 第1回：はじめに（教育課程の意義、学習指導要領と学校教育、教育課題） 第2回：学習指導要領の概要（改定の変遷、改訂方針と重点、新科目、学力調査と入試改革） 第3回：新学習指導要領の重点（カリキュラム・マネジメント、チーム学校、英語教育、道徳教育、ICT教育、地域連携、学校協議会 他） 第4回：学習指導要領内容（総則、道徳、特別活動、総合的な学習） 第5回：学習指導要領内容（取得免許種を中心とした教科） 第6回：教育課程の編成（学校の実態、カリキュラム・マネジメント） 第7回：カリキュラムと評価（PDCA、授業改善） 第8回：まとめ（教員の役割、外国の教育課程、学修の振り返り） 『レポート試験』			
テキスト ・『中学校学習指導要領』文部科学省、『中学校学習指導要領解説総則編』文部科学省。 ・『高等学校学習指導要領』文部科学省、高等学校学習指導要領解説総則編』文部科学省。 ・各自の取得免許種・教科『学習指導要領解〇〇科編』文部科学省。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布するとともに、文献等を紹介する。			
学生に対する評価			

『レポート試験』（50%）、各授業のまとめ（30%）、授業の取り組み（20%）で総合的に判断する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：龍崎 忠 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
中等教育段階において学習指導要領を基準として教育課程が果たす役割や意義について理解し、学校組織の一員として具体的な教育課程の編成ができる教育実践力を修得する。とくに、学習指導要領改訂の歴史、中央教育審議会答申を踏まえた、教育課程編成や指導計画作成の基本原理や方法、カリキュラム・マネジメントの必要性や実際を説明できることを目指す。			
授業の概要			
急速な社会変化や多様で複雑な教育問題を受けて、一定期間ごとに教育内容である学習指導要領の改訂が行われている。その中で、生徒の人格的発達を保障するという教育の目的が、学習指導要領を通して学校の現場でどのように計画され、実践されているのかを具体的に検討する。学習指導要領の変遷と各時代の背景、各学校をベースにしたカリキュラム・マネジメント等、教育課程編成の役割や機能について取り上げる。			
授業計画			
第1回：学校における教育課程の役割…学習指導要領の性格や位置づけを理解する			
第2回：学校における教育課程の機能…「社会に開かれた教育課程」の意味と意義について理解する			
第3回：学校における教育課程の意義…学習指導要領の改訂の変遷や社会的背景を理解する			
第4回：教育課程編成の原理…基本的な編成原理を教育の目的論の観点から理解する			
第5回：教育課程編成の方法…教科横断的・学校間縦断的な教育内容について理解する			
第6回：教育課程編成の工夫…具体的な指導計画を検討することを通して工夫の実際を理解する			
第7回：カリキュラム・マネジメントの意義…カリキュラム・マネジメントの意味と意義について理解する			
第8回：授業改善・学校改善 及び 定期試験 …学習評価・学校評価を通じた教育活動の改善の必要性について理解する			
定期試験			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』			
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』			
参考書・参考資料等			
文部科学省『幼稚園教育要領』、文部科学省『小学校学習指導要領』			

また初回の講義時に参考文献一覧を別途配付する。

学生に対する評価

講義内容の理解のための期末試験 50% 各回で取り組むワーク 50% を総合して実施する。

授業科目名： 特別活動・総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久野弘幸 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 総合的な学習（探究）の時間の目標にあるように、問題解決の過程によって構成される探究 に基づく見方・考え方を理解し、横断的・総合的な学習を行うことの意義、よりよく課題を解 決し、自己の生き方を考えていく資質・能力を育成するこの時間の目標を理解する。とくに、 特別活動と総合的な学習の時間の間の育成を目指す資質・能力の違いと関連性について正しく 理解する。			
授業の概要： 学習指導要領における特別活動および総合的な学習の時間の目標や内容を理解した上で、学 校行事、ホームルーム活動、生徒会活動の取り組みの実際や、その評価方法について学んだり 、総合的な学習の時間の指導計画の作成の際の留意点、実施する際に考慮すべき事項、その 評価方法について学んだりする。とくに、地域社会や現代的諸課題を題材に取り上げて、生徒 に主体的かつ探究的に学びに向かう姿勢を持たせる工夫について、実際の授業場面を取り上げ たり考えさせたりしながら取り組む。			
授業計画： 1. 教育課程の全体像 ―H29年指導要領における「育成を目指す資質・能力」― 2. 特別活動の目標 ―特別活動は、なぜ必要なのか？ 何をを目指すのか？― 3. 特別活動の教育課程における位置付け （各教科等との関連を含む） 4. 特別活動の内容 ―ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の特質― 5. 特別活動の事例研究① ―特別活動の指導の在り方と評価・改善活動― 6. 特別活動の事例研究② ―話し合いの意義と家庭・地域との連携― 7. 総合的な学習の時間の意義と原理 ―総合的な学習は、なぜ必要なのか？ 資質能力の形成― 8. 新学習指導要領と総合的な学習の変遷―H29年版学習指導要領の構造と総合的な学習― 9. 総合的な学習の目標 ―第一の目標と各学校が定める目標・内容の構造― 10. 総合的な学習の指導計画の作成① ―年間指導計画の事例分析と作成の際の留意点― 11. 総合的な学習の指導計画の作成② ―単元・授業計画の事例分析と作成の際の留意点― 12. 総合的な学習の指導と評価① ―探究的な学習をどのように実現するか？― 13. 総合的な学習の指導と評価② ―生徒の学習状況の把握と評価活動の具体例―			

1 4. 総合的な学習の授業開発① ―現代的諸課題を学習課題に設定する演習活動―

1 5. 総合的な学習の授業開発② ―探究的な学習方法を実施する演習活動―定期試験

テキスト

- ・文部科学省・国立教育政策研究所（2018）『学級・学校文化を創る 特別活動【中学校編】』東京書籍（ISBN978-4-487-80961-5）
- ・田村学著・「アクティブ・ラーニング」連絡協議会編（2020）『問い、対話、振り返りによる中学校の授業改革』小学館（ISBN978-4-09-105089-2）
- ・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』
- ・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』

参考書・参考資料等：

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』

学生に対する評価：

授業における主体的参加（学びに向かう態度：30％）、授業における課題や問いに対する思考・判断・表現（40％）、レポート試験または最終試験（知識・理解：30％）を基本に評価する。

授業科目名： 特別活動・総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川陽子、今村敦司、渡辺武 志、加藤直志、三小田博昭、 杉本雅子 担当形態：オムニバス・複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 総合的な学習（探究）の時間の目標にあるように、問題解決の過程によって構成される探究 に基づく見方・考え方を理解し、横断的・総合的な学習を行うことの意義、よりよく課題を解 決し、自己の生き方を考えていく資質・能力を育成するこの時間の目標を理解する。とくに、 特別活動と総合的な学習の時間の間の育成を目指す資質・能力の違いと関連性について正しく 理解する。			
授業の概要 学習指導要領における特別活動および総合的な学習の時間の目標や内容を理解した上で、学 校行事、ホームルーム活動、生徒会活動の取り組みの実際や、その評価方法について学んだり 、総合的な学習の時間の指導計画の作成の際の留意点、実施する際に考慮すべき事項、その 評価方法について学んだりする。とくに、地域社会や現代的諸課題を題材に取り上げて、生徒 に主体的かつ探究的に学びに向かう姿勢を持たせる工夫について、実際の授業場面を取り上げ たり考えさせたりしながら取り組む。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、学習指導要領における特別活動の目標と主な内容（西川） 第2回 学校行事（西川） 第3回 学級活動（ホームルーム）（今村・杉本） 第4回 生徒会活動（渡辺・杉本） 第5回 集団活動の意義と指導の在り方～人間構築プログラム～（西川・三小田） 第6回 地域や家庭との連携（加藤） 第7回 特別活動の指導法 安全・安心について（加藤） 第8回 総合的な学習の時間の目標と主な内容（渡辺） 第9回 総合的な学習の時間の指導計画作成と配慮事項（渡辺） 第10回 総合的な学習の時間の評価（西川・三小田） 第11回 総合学習で学ぶこと（西川・三小田）			

第12回 地域社会との協力（加藤）

第13回 キャリア教育（今村）

第14回 国際理解教育（西川・三小田）

第15回 授業のまとめ、定期試験（西川）

テキスト

全体を通じてのものはない。ただし、各回印刷物が配布されることがある。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出するレポート（20％）

授業科目名： 教育方法論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田好章
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ この授業では、教育方法学の学術的知見と教育実践の蓄積にもとづき、未来社会を生きる子どもに求められる資質・能力（情報活用能力を含む）を展望し、教育の方法や技術（ICTの活用を含む）に関する理論的な知識を体系的に理解し、教師として必要とされる実践的な技能を総合的に習得することを目標とする。加えて、学校を基盤とする教育実践の開発・改善のために、専門職である教師に求められる「探究的实践力」を身につけられるようにするための基盤を形成することを目指す。				
授業の概要 教育方法学の学術的知見と教育実践の蓄積にもとづき、教育の方法及び技術を多角的・多面的に考察する。知識の理解・技能の習得・研究マインドの育成を重視する。				
授業計画 1. 未来社会を生きる子どもに求められる資質・能力と教育の方法〔社会の情報化への対応〕 2. 教育方法の基礎理論とその変遷〔欧米の教育方法・日本の教育方法〕 3. 授業の基礎的な教育技術〔個性的な学び・納得のある学び・協同のある学び〕 4. 授業設計と学習指導案（模擬授業のデザイン） 5. 学習過程と学習成果の評価（模擬授業の準備） 6. 模擬授業の実施 7. 教育実践の開発と改善のための授業研究法（模擬授業の振り返り） 8. 学校における ICT 活用の意義と環境整備〔特別支援教育での ICT 活用・外部との連携を含む〕 9. 授業における ICT 活用技術の基礎〔資質・能力や学習場面に応じた ICT の活用事例を含む〕 10. ICT による教育技術イノベーション〔資質・能力や学習場面に応じた ICT の活用法を含む〕 11. ICT による学習指導・校務改善の可能性〔学習評価・オンライン学習・統合型校務支援を含む〕 12. 情報活用能力の指導法〔情報モラルを含む〕 13. 情報通信機器の指導法 14. ICT 活用技術事例研究（学習指導案分析活動） 15. 全体のまとめ〔教育技術と ICT の活用による主体的・対話的で深い学びに向けて〕				
テキスト 授業内で配布する資料をもとに実施する。				
参考書・参考資料等 『教育方法学研究ハンドブック』日本教育方法学会編，学文社				

学生に対する評価

授業で指示する課題(75%)・最終レポート(25%)を評価（知識30%、技能30%、考察40%）

授業科目名： 教育方法論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山川法子、水野正朗
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ この授業では、教育方法学の学術的知見と教育実践の蓄積にもとづき、未来社会を生きる子どもに求められる資質・能力（情報活用能力を含む）を展望し、教育の方法や技術（ICTの活用を含む）に関する理論的な知識を体系的に理解し、教師として必要とされる実践的な技能を総合的に習得することを目標とする。加えて、学校を基盤とする教育実践の開発・改善のために、専門職である教師に求められる「探究的実践力」を身につけられるようにするための基盤を形成することを目指す。				
授業の概要 教育方法学の学術的知見と教育実践の蓄積にもとづき、教育の方法及び技術を多角的・多面的に考察する。知識の理解・技能の習得・研究マインドの育成を重視する。				
授業計画 1. <u>未来社会を生きる子どもに求められる資質・能力と教育の方法〔社会の情報化への対応〕</u> 2. <u>教育方法の基礎理論とその変遷〔欧米の教育方法・日本の教育方法〕</u> 3. <u>授業の基礎的な教育技術〔個性的な学び・納得のある学び・協同のある学び〕</u> 4. <u>授業設計と学習指導案（模擬授業のデザイン）</u> 5. <u>学習過程と学習成果の評価（模擬授業の準備）</u> 6. <u>模擬授業の実施</u> 7. <u>教育実践の開発と改善のための授業研究法（模擬授業の振り返り）</u> 8. <u>学校における ICT 活用の意義と環境整備〔特別支援教育での ICT 活用・外部との連携を含む〕</u> 9. <u>授業における ICT 活用技術の基礎〔資質・能力や学習場面に応じた ICT の活用事例を含む〕</u> 10. <u>ICT による教育技術イノベーション〔資質・能力や学習場面に応じた ICT の活用法を含む〕</u> 11. <u>ICT による学習指導・校務改善の可能性〔学習評価・オンライン学習・統合型校務支援を含む〕</u> 12. <u>情報活用能力の指導法〔情報モラルを含む〕</u> 13. <u>情報通信機器の指導法</u> 14. <u>ICT 活用技術事例研究（学習指導案分析活動）</u> 15. <u>全体のまとめ〔教育技術とICTの活用による主体的・対話的で深い学びに向けて〕</u>				
テキスト 授業内で配布する資料をもとに実施する。				
参考書・参考資料等				

『教育方法学研究ハンドブック』日本教育方法学会編，学文社
学生に対する評価
授業で指示する課題(75%)・最終レポート(25%)を評価（知識30%、技能30%、考察40%）

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平石賢二 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 本講義では，児童・生徒一人ひとりの人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることをめざす教育活動としての生徒指導，進路指導及びキャリア教育の意義，理論と方法に関する知識と，教師に求められる実践的な技能を習得することを到達目標とする。 また，今日の児童・生徒が抱えている主要な心の問題に焦点をあて，児童・生徒理解と問題解決のために必要な知識と技能の習得も目標とする。			
授業の概要 生徒指導，進路指導及びキャリア教育の実践に必要とされる理論，方法等に関する知識と技能に関する講義，実践的な課題を用いたグループワーク等を行う。			
授業計画 第1回：はじめに 生徒指導と進路指導及びキャリア教育の意義と原理 第2回：生徒指導と進路指導及びキャリア教育における今日的課題 第3回：心の発達と心理的適応の理解 第4回：問題行動の理解（1）：いじめ，非行，校則違反等の反社会的行動 第5回：問題行動の理解（2）：非社会的行動，情緒的問題その他 第6回：発達障がいの理解 第7回：児童生徒理解の方法：アセスメント (中間レポート実施) 第8回：生徒指導の方法（1）：個別指導と集団指導 第9回：生徒指導の方法（2）：学校内におけるチームとしての連携，協働 第10回：生徒指導の方法（3）：学校・家庭・地域との連携，協働 第11回：キャリア発達 第12回：キャリア・カウンセリングとキャリア・ガイダンス 第13回：進路指導の方法（1）：自己理解とアイデンティティ形成を促す方法 第14回：進路指導の方法（2）：家庭・地域との連携，協働 第15回：授業の総括 (レポート試験実施)			
テキスト			

文部科学省『生徒指導提要』 教育図書株式会社
参考書・参考資料等 講義で適宜紹介する。
学生に対する評価 中間レポート（30%）とレポート試験（70%）から総合的に評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宇田光・平石賢二 担当形態：オムニバス・複数
科 目		道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 本講義では，児童・生徒一人ひとりの人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることをめざす教育活動としての生徒指導，進路指導及びキャリア教育の意義，理論と方法に関する知識と，教師に求められる実践的な技能を習得することを到達目標とする。また，今日の児童・生徒が抱えている主要な心の問題に焦点をあて，児童・生徒理解と問題解決のために必要な知識と技能の習得も目標とする。				
授業の概要 生徒指導，進路指導及びキャリア教育の実践に必要とされる理論，方法等に関する知識と技能に関する講義，実践的な課題を用いたグループワーク等を行う。				
授業計画 第1回：はじめに 生徒指導と進路指導（宇田・平石） 第2回：生徒指導・進路指導と教育相談（宇田・平石） 第3回：生徒指導の課題（1）いじめ（宇田） 第4回：生徒指導の課題（2）不登校（宇田） 第5回：生徒指導・進路指導とブリーフカウンセリング（問題志向）（宇田） 第6回：生徒指導・進路指導とブリーフカウンセリング（解決志向）（宇田） 第7回：ゼロトレランス（宇田） 第8回：ポジティブ生徒指導（3層の指導、演習）（宇田） 第9回：個人差・適性と職業指導と進路指導（宇田・平石） 第10回：進路指導とキャリア教育（宇田・平石） 第11回：キャリア教育プロジェクト（職業指導）（宇田・平石） 第12回：キャリア教育プロジェクト（適性テストと自己理解）（宇田・平石） 第13回：キャリア教育プロジェクト（進路指導）（宇田・平石） 第14回：キャリア教育プロジェクト、発表（宇田・平石） 第15回：授業のまとめ（宇田・平石）				
テキスト 市川千秋ほか 学校心理学入門シリーズ4 ― 臨床生徒指導 応用編 ナカニシヤ出版				
参考書・参考資料等				

ストーモントら いじめ、学級崩壊を激減させるポジティブ生徒指導（PBS）ガイドブック
明石書店

学生に対する評価

レポート試験（当日ブリーフレポート集）70%、プロジェクトの評定30%による。

授業科目名： 教育相談論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：狐塚貴博 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
学校教育現場にて直面する生徒の心の諸問題等に向き合うために必要な知識、姿勢、及び実践的方法について学習することを通して、教師として教育相談活動を実践する力を養成することを目的とする。具体的には、教育相談の意義や内容、教育相談の基盤となるカウンセリングの基礎知識と支援方法を習得すると共に、生徒を取り巻く諸問題について理解を深める。また、生徒を取り巻く諸問題は複雑化しているため、具体的な問題場面や事例の資料等を基に実践的な理解を深めると共に、学内外との連携や予防的アプローチについても検討する。				
授業の概要				
教育相談の現場で実際に起こりうる諸問題について、自ら思考し、判断できる実践能力を習得するために、教育相談の実践を支える基礎理論や生徒の発達課題、適応上の課題、問題行動を理解し、さらには教師として必要なカウンセリングの基礎的な知識や姿勢、態度、支援方法を学ぶ。主体的な授業参加や、問題を多角的に捉える視点を促すために、班やペアでの協議と発表、グループワーク等も取り入れる。教育相談に関連する最新の動向についても検討を行う。				
授業計画				
第1回： 教育相談とは何か：教育相談の意義				
第2回： 教育相談の現状と課題を考える				
第3回： 教育相談を支える基礎理論（1）：学校心理学と臨床心理学から				
第4回： 教育相談を支える基礎理論（2）：発達心理学から				
第5回： 発達課題と不適応のメカニズム				
第6回： 思春期・青年期における不適応				
第7回： 教育相談実践の基本的姿勢（1）：カウンセリングマインド				
第8回： 教育相談実践の基本的姿勢（2）：問題の捉え方と実践的課題				
第9回： 教育相談実践（1）：アセスメントと方針の立て方				
第10回：教育相談実践（2）：いじめ問題の理解と対応実践				
第11回：教育相談実践（3）：不登校理解と対応実践				
第12回：教育相談実践（4）：非行等問題行動の理解と対応				
第13回：教育相談実践（5）：教育相談の校内体制づくり				
第14回：教育相談実践（6）：教育相談の学外連携の理解				

第15回：まとめ - 教育相談実践に向けて

定期試験

テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

各回のテーマに沿って、授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の小レポート（40%）、定期試験（60%）により総合的に判断する。

授業科目名： 教育相談論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川島一晃 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
学校教育現場にて直面する生徒の心の諸問題等に向き合うために必要な知識、姿勢、及び実践的方法について学習することを通して、教師として教育相談活動を実践する力を養成することを目的とする。具体的には、教育相談の意義や内容、教育相談の基盤となるカウンセリングの基礎知識と支援方法を習得すると共に、生徒を取り巻く諸問題について理解を深める。また、生徒を取り巻く諸問題は複雑化しているため、具体的な問題場面や事例の資料等を基に実践的な理解を深めると共に、学内外との連携や予防的アプローチについても検討する。				
授業の概要				
教育相談の現場で実際に起こりうる諸問題について、自ら思考し、判断できる実践能力を習得するために、教育相談の実践を支える基礎理論や生徒の発達課題、適応上の課題、問題行動を理解し、さらには教師として必要なカウンセリングの基礎的な知識や姿勢、態度、支援方法を学ぶ。主体的な授業参加や、問題を多角的に捉える視点を促すために、班やペアでの協議と発表、グループワーク等も取り入れる。教育相談に関連する最新の動向についても検討を行う。				
授業計画				
1. オリエンテーション・教育相談とは				
2. 子どもの「サイン」と教育相談				
3. 教育相談におけるアセスメント（1）：学校心理学の枠組み				
4. 教育相談におけるアセスメント（2）：多角的なアセスメント				
5. カウンセリングの基礎知識と実践（1）：カウンセリング概説				
6. カウンセリングの基礎知識と実践（2）：カウンセリングの環境を素材に考える				
7. カウンセリングの基礎知識と実践（3）：カウンセリングの技術を素材に考える				
8. カウンセリングの基礎知識と実践（4）：共感的応答の演習				
9. カウンセリングの基礎知識と実践（5）：不登校の理解と対応				
10. カウンセリングの基礎知識と実践（6）：精神疾患について知る				
11. カウンセリングの基礎知識と実践（7）：発達障害について知る				
12. カウンセリングの基礎知識と実践（8）：いじめの理解と援助要請				
13. カウンセリングの基礎知識と実践（9）：保護者対応と教育相談				

14. カウンセリングの基礎知識と実践（10）：教師のメンタルヘルスと教育相談
15. 全体のまとめ（定期試験）
テキスト 特に教科書は指定しない。
参考書・参考資料等 授業において適宜紹介する。
学生に対する評価 期末試験(40%)，提出物・授業参加態度(40%)，小レポート(20%)

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂本 雄士 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児，児童生徒の発達に応じた自己理解や人間関係の構築，集団適応や個性・人格の成長に関する心理的特質や教育的課題等を把握して，心理的支援を行うためのカウンセリングに関する知識・技法を含めた実践的手法に関する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。 講義の到達目標は以下の３点である。 ① 心理学に関する基礎的な理論を踏まえて，学校における教育相談の意義と理論について理解する。 ② 学校における教育相談を進めるにあたり，カウンセリングに関する基礎的内容を理解し実践的手法を用いた不適応や問題行動への対応を理解する。 ③ 教育相談の組織的な取り組みや関係機関との連携など，教育相談を進める際の実践的手法について理解する。			
授業の概要			
教育相談場面における諸問題について対応するために，教師として必要なカウンセリングの基礎的な知識，技法等を身に付けるとともに，事例に基づいた対応方法について検討し，実践的な理解を深める。			
授業計画			
第１回：教育相談とは 教育相談の意義 目的			
第２回：カウンセリング(1)基礎 カウンセリングの基礎 理論 歴史			
第３回：カウンセリング(2)技法 カウンセリングの基本的な技法			
第４回：アセスメント 行動観察 面接 心理検査			
第５回：発達課題と教育相談 児童期 思春期 青年期			
第６回：教育相談の進め方 校内連携 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 校外連携 関係機関			
第７回：教育相談の実践(1) いじめ			

現状 校内・関係機関との連携 事例研究 第8回：教育相談の実践(2) 不登校 現状 校内・関係機関との連携 事例研究 第9回：教育相談の実践(3) 虐待 現状 校内・関係機関との連携 事例研究 第10回：教育相談の実践(4) 非行 現状 校内・関係機関との連携 事例研究 第11回：教育相談の実践(5) 発達障害 発達障害の理解 校内・関係機関との連携 事例研究 第12回：教育相談の実践(6) 学級経営 学級経営 構成的グループエンカウンター 第13回：教育相談の実践(7) 保護者支援 保護者理解 支援 第14回：教育相談の実践(8) 教師・学校 メンタルヘルス バーンアウト 第15回：授業全体のまとめと定期試験 授業全体のまとめと振り返り 授業全体を出題範囲とした試験の実施
テキスト 特に教科書は指定しない。
参考書・参考資料等 ・文部科学省（2022）「生徒指導提要」ISBN978-4-9912898-0-4（2022-12-06 Ver. 1.0.0） ・飯田順子・石田弓（編）（2021）「新・教職課程演習第9巻 教育相談」協同出版 ・会沢信彦（編）（2019）「教育相談の理論と方法 コアカリキュラム対応」北樹出版 その他授業において適宜紹介する。
学生に対する評価 各授業における提出課題（45％），定期試験（55％）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名：河野明日香	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20人（1クラス20人×6クラス、各クラス1名の担当教員）					
教員の連携・協力体制					
授業の立案・実施に当たり、教科に関する科目の教員と担当教員で連携を取るとともに、愛知県・名古屋市教育委員会、名古屋大学附属中学校・高校教員、中学校・高校校長経験者との連携・協力体制をとる。					
授業の到達目標及びテーマ					
受講生のこれまでの教職課程の履修状況を踏まえ不足している知識や技能等を補うことにより、教員として必要な知識技能を習得することを到達目標とする。授業では教員として求められる4つの事項、すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科内容等の指導力を軸に、教員候補生としての総合的力量形成をめざす。加えて、⑤授業実践やそのための教材研究でICTを活用できることもめざす。					
授業の概要					
養成段階で習得すべき最小限必要な資質能力である上記4つの事項の力量形成を組み込む内容とし、事例研究、ロールプレイング、集団討論等を取り入れた実践的な授業形態をとる。授業に際しては附属中高教員および中高校長経験者と積極的な協力体制をとり、教職と教科を統合した多様な観点から受講生の力量形成を行う。また、研究レポートを作成する際には、大学のLMS（Learning Management System）のフォーラムやグループチャットの機能を使用したり、必要に応じてビデオ会議システムを使ってグループディスカッションをしたりする。					
授業計画					
第1回：オリエンテーション					
第2回：自己課題の発表とディスカッション（NUCTフォーラム機能の活用）					
第3回：研究レポート課題の設定と担当教員からのコメント					
第4回：講演会：「特別支援教育の現状と課題」（外部講師による講演）					
第5回：講演会：「教師の役割・専門性の確立～自分史を振り返りながら～」（外部講師による講演）					
第6回：ロールプレイによる事例研究（1）不登校					
第7回：ロールプレイによる事例研究（2）学習指導・学習支援					
第8回：ロールプレイによる事例研究（3）いじめ					
第9回：ロールプレイによる事例研究（4）学校の危機管理					
第10回：講演会：「こどもの人権を考える～虐待・いじめ・非行など～」（外部講師による講演）					
第11回：講演会：「学校現場におけるスクールカウンセラーの役割」（外部講師による講演）					

第12回：研究レポート発表会（1）教員としての使命感・責任感・教育的愛情を中心に ～教師としての可能性：生徒の可能性、授業の可能性、そして学校の可能性の探究～（NUCTのファイル共有機能の活用）

第13回：研究レポート発表会（2）教員としての社会性・対人関係能力を中心に ～教師として有すべき人間性と社会性：職業倫理と情報倫理に焦点を当てて～（NUCTのファイル共有機能の活用）

第14回：研究レポート発表会（3）生徒理解・学級経営・教科の指導力を中心に ～教師としての専門性：自己研鑽のための授業研究と教材研究の方法と技術（ICT活用を含む）～（NUCTのファイル共有機能の活用）

第15回：総括と講評

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

演習時に配布する。

学生に対する評価

実技指導、グループ討論、研究レポートの結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身についているか総合的に評価する。